

年少労働調査資料 第66集

金属製品製造業における勤労青少年 の安全衛生意識に関する調査結果

昭和51年3月

労働省婦人少年局

は し が き

労働災害は、成長過程にある勤労青少年にとって、特にその後の職業生活や生活設計に重大な影響を及ぼすものである。

本調査は、勤労青少年の多く就業している業種のうち、金属製品製造業について、勤労青少年の災害防止に関する意識と態度等を把握し、勤労青少年の災害防止及び職業生活の充実のための基礎資料とするために実施したものである。

勤労青少年の災害防止に関心をもたれる方々に、ご利用いただければ幸いである。

最後に、調査にご協力いただいた事業所及び関係者の方々に、深く感謝の意を表する次第である。

昭和51年3月

労働省婦人少年局

目 次

I 調査の概要	1
II 調査結果	3
事業所調査	3
1 調査対象事業所の構成	3
2 調査対象事業所の勤労青少年	3
(1) 労働者に占める勤労青少年の割合	3
(2) 勤労青少年の性別構成	4
(3) 勤労青少年の職種	4
3 勤労青少年の安全衛生に関する事業所の制度及び勤労青少年に 対する配慮の状況	6
(1) 勤労青少年の安全衛生教育	6
(2) 勤労青少年に対する安全衛生上の配慮	8
(3) 勤労青少年の安全衛生に関する意見提案先	8
4 勤労青少年を指導する上での問題点	10
5 家庭教育・学校教育への要望	10
個人調査	13
1 勤労青少年の個人的特性	13
(1) 性	13
(2) 年令	13
(3) 学歴	14
(4) 勤続年数	15
2 勤労青少年の就業の状況	15
(1) 職種	15

(2) 仕事の経験	17
(3) 勤務形態	17
3 勤労青少年の仕事上のけが・病気の状況及びけが・病気に対する不安	19
(1) 仕事上のけが・病気	19
(2) 同僚の仕事上のけが・病気	22
(3) 仕事上のけが・病気に対する不安	22
4 勤労青少年の職場生活についての意識	26
(1) 仕事に関連した知識	26
イ 安全衛生関係の法律や規則について	26
ロ 機械・材料について	27
(2) 安全衛生に関する事業所の指導に対する意識	28
(3) 職業継続の意志	30
5 勤労青少年の日常（職場外生活）の生活態度	33
(1) 健康上の留意事項	33
(2) 生活態度に起因する遅刻・欠勤	34
(3) 昼休みの過ごし方	36
6 労働災害の防止に関する勤労青少年の意識	37
(1) 作業・設備の改善についての提案状況	37
(2) 労働災害の防止	38
イ 本人自身について	38
ロ 施設や設備について	38
ハ 労務管理や教育・厚生的一面について	40
(3) 国・地方公共団体に対する要望	41

付 表

事業所調査	4 4
付表 1 規模別事業所数及び労働者数	4 4
個人調査	4 4
付表 1 性，規模，経験年数別勤労青少年の構成	4 4
付表 2 性，年令，経験年数，仕事上のけが等の有無，事業所の規則・指導が守りにくい・反発を感じる理由別勤労青少年の構成	4 5

調 査 票	4 6
-------------	-----

参 考（労働災害関連図表）

参考図 1 産業別，休業 4 日以上之死傷者数の構成	4 9
参考図 2 規模別，休業 4 日以上之死傷者数の構成	5 0
参考表 1 業種別，傷病程度別，事故の型別死傷者数	5 2
参考表 2 事業の種類別，年令別死傷者数	5 4
参考表 3 事故の種類別，経験期間別死傷者数	5 6
参考表 4 不安全な行動別，年令階級別死傷者数	5 8

I 調 査 の 概 要

1 調査の目的

勤労青少年が多く就業している業種のうち、金属製品製造業について、勤労青少年の災害防止に関する意識と態度等を把握し、勤労青少年の災害防止及び職業生活の充実のための施策の基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査の範囲

(1) 日本国全域

(2) 産 業

日本標準産業分類による金属製品製造業

(3) 事業所

上記(2)に掲げる産業に属し、昭和49年4月から、昭和50年3月までの間に労働災害が発生し、かつ25才未満(昭和50年6月20日現在)の青少年を雇用する事業所のうちから選定した約500事業所及びそこに働く青少年約2,000名。

3 調査事項

(1) 事業所に関する事項

勤労青少年の災害防止についての意識と対策

(2) 個人に関する事項

イ 仕事の状況

ロ 安全衛生に関する態度

ハ 労働災害の防止

4 調査対象期間

昭和49年6月以降，昭和50年6月20日まで

5 調査実施期間

昭和50年6月20日～7月31日

6 調査機関

労働省婦人少年局－婦人少年室－統計調査員

7 調査方法

実地他計の方法による。

Ⅱ 調 査 結 果

事 業 所 調 査

1 調査対象事業所の構成

この調査の対象は 514 事業所で、事業所規模別には、1～29 人が 296 事業所（57.6％）、30～99 人が 165 事業所（32.1％）、100 人以上が 53 事業所（10.3％）であった。

2 調査対象事業所の勤労青少年

(1) 労働者に占める勤労青少年の割合

調査対象事業所に雇用される労働者数は付表 1 のとおりであるが、労働者に占める 25 才未満の勤労青少年の割合は第 1 表のとおりである。

労働者総数に占める勤労青少年の割合は、21.7％で、大規模事業所になるほどその割合は高くなっている。

また、勤労青少年が男子労働者に占める割合は 21.6％、女子労働者に占める割合は 21.8％で、ほぼ同じ割合であるが、これを規模別にみると、男子の

第 1 表 規模、性別労働者に占める勤労青少年の割合

(%)

	計 (労働者計=100)	男 (男子労働者=100)	女 (女子労働者=100)
計	21.7	21.6	21.8
1～29 人	18.9	20.5	11.8
30～99 人	20.2	20.9	17.2
100 人以上	23.5	22.5	27.2

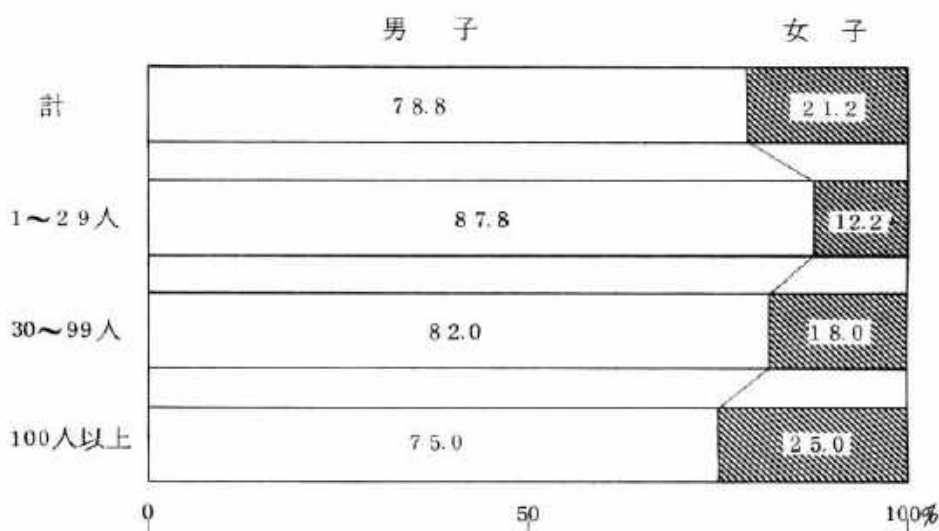
注) 勤労青少年=25 才未満、以下同じ

場合は100人以上の規模でやや割合が高いが小規模事業所と大規模事業所の差は少ないのに対し、女子の場合は100人以上では27.2%と高い割合を占めているが、30～99人では17.2%、1～29人では11.8%にすぎず規模間の差が大きい。

(2) 勤労青少年の性別構成

調査対象事業所に雇用される勤労青少年の性別構成は、男子が78.8%、女子が21.2%である。大規模事業所になるほど女子の割合が高く、1～29人が12.2%、30～99人が18.0%、100人以上が25.0%となっている（第1図）。

図1 規模、性別勤労青少年の構成



(3) 勤労青少年の職種

調査対象事業所において、労働者が就業している職種毎に事業所の割合をみたのが第2表である。

多くの事業所であげている職種は、労働者全体では、「電気溶接」（65.0%）、「ガス溶接・切断」（62.6%）、「旋盤・フライス盤など機械による加工」（50.8%）、「金属プレス」（48.1%）、「その他の金属加工作業」

第2表 職種、規模、勤労青少年の就業状況別事業所の割合

(%)

職 種		計 (514事業所 =100)		1~29人 (296事業所 =100)		30~99人 (165事業所 =100)		100人以上 (53事業所 =100)	
		労働者の		労働者の		労働者の		労働者の	
		就業 あり	うち青 少年の 就業あり	就業 あり	うち青 少年の 就業あり	就業 あり	うち青 少年の 就業あり	就業 あり	うち青 少年の 就業あり
金 属 工 業	旋盤・フライス盤など機械による加工	50.8	30.9	41.2	22.3	57.0	34.5	84.9	67.9
	金 属 プ レ ス	48.1	28.8	40.2	22.0	55.2	33.3	69.8	52.8
	シ ャ ー	34.2	17.7	32.1	19.6	37.0	12.7	37.7	22.6
加 工 業	電 気 溶 接	65.0	44.7	63.5	44.6	63.6	41.2	77.4	56.6
	ガス溶断・切断	62.6	38.7	62.5	37.8	60.0	34.5	71.7	56.6
	鉄工・びょう打・製缶	30.4	18.5	35.5	20.6	21.2	11.5	30.2	28.3
作 業	ブリキ加工・板金	15.8	8.9	16.9	8.8	12.1	6.1	20.8	18.9
	金 属 調 刻	1.9	1.2	2.0	1.7	2.4	0.6	—	—
	め っ き	5.6	3.7	2.0	1.4	9.1	6.1	15.1	9.4
そ の 他 の 作 業	仕 上	39.1	24.7	34.8	19.6	45.5	29.7	43.4	37.7
	パ フ み が き	10.5	4.7	7.8	3.7	14.5	5.5	13.2	7.5
	針金製品・針ね製造	3.3	2.3	1.0	1.0	6.7	3.6	5.7	5.7
そ の 他 の 作 業	その他の金属加工作業	45.5	32.9	41.2	25.3	51.5	43.0	50.9	43.4
	運 搬	53.5	24.5	44.9	20.6	61.8	24.8	75.5	45.3
	記 録 ・ 製 図	46.3	18.5	34.8	7.1	58.8	25.5	71.7	60.4
	監 視 作 業	16.9	3.3	12.8	1.7	22.4	5.5	22.6	5.7
そ の 他 の 作 業	事 務	78.0	40.1	69.9	21.3	89.7	59.4	85.8	84.9
	そ の 他	17.5	11.3	10.1	7.8	27.3	12.7	28.3	26.4

(4 5.5 %) , 「 仕 上 」 (3 9.1 %) , 「 シャー 」 (3 4.2 %) , 「 鉄 工 ・ び
ょう 打 ・ 製 缶 」 (3 0.4 %) , 「 事 務 」 (7 8.0 %) , 「 運 搬 」 (5 3.5 %) ,
「 記 録 ・ 製 図 」 (4 6.3 %) 等 であるが、このうち勤労青少年のみについてみ
ると、「電気溶接」(4 4.7 %) , 「ガス溶接・切断」(3 8.7 %) , 「その
他の金属加工作業」(3 2.9 %) , 「旋盤・フライス盤など機械による加工」
(3 0.9 %) , 「金属プレス」(2 8.8 %) , 「事務」(4 0.1 %) 等への就
業を多くの事業所があげている。

労働者全体をみても、勤労青少年のみをみても、規模の大きい事業所になる
ほど、その就業分野は広がっている。

3 勤労青少年の安全衛生に関する事業所の制度及び青少年に対する配慮の状況

(1) 勤労青少年の安全衛生教育

—安全衛生教育の方法—

入社時の勤労青少年の安全衛生教育の方法は、「個別に仕事を通じて」実施
する事業所が最も多く 7 6.4 % , ついで「期間を定めて一せいに」の 2 3.7 % ,
「その他」 5.7 % となっている。「その他」の方法としては“意見発表会の席
上”“朝礼時”“仕事の前又は後で”“親会社の研修に派遣”等があげられて
いる。

教育の方法は事業所規模間の相違が大きく、特に「期間を定めて一せいに」に
実施する事業所は、大規模事業所になるほど高い割合を占め、100人以上で
は 6 4.2 % であるが、30～99人は 3 7.0 % , 1～29人は 9.1 % と少ない。
一方、「個別に仕事を通じて」実施する事業所は、反対に小規模事業所になる
ほど高い割合を占め、特に1～29人規模では9割近くを占めている(第3表)。

—安全衛生教育の担当者—

勤労青少年の安全衛生教育の担当者は、「すぐ上の上司」が最も多く 3 9.8
% , ついで「安全衛生委員・安全衛生管理者など」の 3 1.8 % , 「現場監督」
の 2 9.7 % , 「外部の講師」 3.0 % , 「その他」の 1 7.8 % となっている。

第3表 規模、入社時の勤労青少年の安全衛生教育の方法別事業所の構成

M・A (%)

規 模	計	期間を定めて一せいに	個別に仕事を通じて	そ の 他
計	100.0 (514)	23.7	76.4	5.7
1～29人	100.0 (296)	9.1	86.1	7.5
30～99人	100.0 (165)	37.0	67.3	3.6
100人以上	100.0 (53)	64.2	50.9	1.9

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る

「その他」の内容は、工場長、社長等会社役員、労務、人事、総務担当者、本社の技術員等をあげている。

規模別にみると、「すぐ上の上司」が担当するという事業所はどの規模でも約4割前後を占めているが、「安全・衛生委員、安全・衛生管理者など」が担当する事業所は、大規模事業所ほど多く、1～29人では13.8%にすぎないが、30～99人は49.7%、100人以上では67.9%を占めている。「その他」の担当者が教育を担当するのは、小規模事業所に多い(第4表)。

第4表 規模、入社時の青少年の安全衛生教育担当者別事業所の構成

M・A (%)

規 模	計	安全・衛生 委員、安全 ・衛生管理 者など	現場監督	外部の講師	すぐ上 の上司	その他
計	100.0 (514)	31.8	29.7	3.0	39.8	17.8
1～29人	100.0 (296)	13.8	31.5	1.4	41.2	23.5
30～99人	100.0 (165)	49.7	27.0	4.9	36.2	10.4
100人以上	100.0 (53)	67.9	28.3	5.7	43.4	9.4

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る

(2) 勤労青少年に対する安全衛生上の配慮

「安全衛生上、特に青少年に対して気づかいていることがありますか」の設問に対し、「ある」という事業所は75.7%、「ない」という事業所は24.3%である。気づかいていることが「ある」事業所の割合は、規模が大きくなるほど高く、特に100人以上ではほとんどの事業所が何らかの配慮をしている。

配慮の内容は、最も多いのが「重点的な技術指導」で54.8%、ついで「意志疎通をよくする」51.2%、「生活指導や相談」38.6%、「若者のリーダーの養成」30.1%、「自動車運転者の指導」24.4%、「体操・体力づくり」22.9%、「余暇の指導」21.9%、「その他」5.9%の順となっている。

「その他」としては、服装の整備、整理整頓、安全衛生知識の周知徹底、青少年の意志を尊重した配置転換、危険業務への就業除外、通勤途上の災害に対する指導等となっている。

「重点的な技術指導」について配慮している割合は1～29人規模において高く60.1%、ついで100人以上の52.9%、30～99人の47.4%となっている。それ以外は、各項目とも、事業所規模が大きくなるほど配慮している傾向がみられるが、とくに「意志疎通をよくする」や「若者のリーダーの養成」、「生活指導や相談」等人間関係や青少年の生活面での配慮等が大規模事業所に多くみられる(第5表)。

(3) 勤労青少年の安全衛生に関する意見提案先

「安全衛生についての青少年の意見は主にだれがききますか」の設問に対し、最も多いのが「社長・工場長」で41.8%、ついで「すぐ上の上司」31.7%、「安全衛生委員・安全衛生管理者」の20.4%、「現場監督」16.9%、「その他」7.0%の順となっている。「その他」の内容としては、発表会開催時、親睦会役員、提案用紙の配布、会社役員、労務、総務担当者、同じ職場の年長者等をあげている。

提案先に「社長・工場長」をあげているのは小規模事業所に多く、1～29

第5表 規模、勤労青少年の安全衛生上の配慮の有無及び内容別事業所の構成

(%)

規 模	計	ない	安全衛生上気づかいていることがある (M A)								
			小計	重点的な技術指導	体操・体力づくり	若者のリーダーの養成	生活指導や相談	余暇の指導	自動車運転者の指導	意思疎通をよくする	その他
計	100.0 (514)	24.3	75.7 100.0	54.8	22.9	30.1	38.6	21.9	24.4	51.2	5.9
1～29人	100.0 (296)	31.4	68.6 100.0	60.1	17.7	22.7	32.0	13.8	21.7	43.3	5.9
30～99人	100.0 (165)	18.2	81.8 100.0	47.4	28.9	34.8	45.2	30.4	23.0	56.3	5.9
100人以上	100.0 (53)	3.8	96.2 100.0	52.9	27.5	47.1	47.0	31.4	39.2	64.7	5.9

注) 多答式のため「気づかいていることがある」の内訳は小計を上回る。

人規模では57.4%で最も多いが30～99人では24.2%、100人以上では9.4%にすぎない。一方「すぐ上の上司」をあげているのは大規模事業所に多く、100人以上が6割を占めている。「安全・衛生委員、安全・衛生管理者」をあげたのは、1～29人では8.4%にすぎないが、30～99人が34.5%、100人以上では43.4%で大規模事業所になるほど多い。「現場監督」をあげている事業所も規模が大きくなるほど割合が高

第6表 規模、安全衛生に関する勤労青少年の意見提案先別事業所の構成

M A (%)

規 模	計	安全・衛生委員、安全・衛生管理者	現場監督	社長・工場長	すぐ上の上司	その他
計	100.0 (514)	20.4	16.9	41.8	31.7	7.0
1～29人	100.0 (296)	8.4	14.5	57.1	25.7	5.0
30～99人	100.0 (165)	34.5	18.8	24.2	33.3	9.7
100人以上	100.0 (53)	43.4	24.5	9.4	60.4	9.4

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

い（第6表）。

4 勤労青少年を指導する上での問題点

「最近の青少年について安全衛生に関連して指導上困っていることがありますか」の設問に対し、「ある」という事業所は47.5%で、その割合は、大規模事業所になるほど高く、特に100人以上では約7割にのぼっている。

指導上困ることでもっとも多いのが「注意力の不足」で39.4%、ついで「根気がない」34.4%、「無断欠勤・遅刻が多い」31.1%、「頭髪をきちんとしない」29.1%、「作業服をきちんと着ない」21.7%、「余暇の遊びすぎ」18.9%、「いいつけを守らない」、「作業上のきまりを守らない」各々17.6%、「転職が多く指導効果があがらない」10.6%、「体力の不足」8.2%、「その他」8.2%の順となっている。「その他」の内容は、朝食抜きで出勤しそのまま作業につく、協調性がない、自発性がない、常識・道徳心がない、事業所が青少年の私生活まで立ち入れない等の問題があげられている。

「注意力の不足」、「根気がない」等は、各規模とも高い割合を占めているが、大規模事業所ほど「頭髪をきちんとしない」、「作業服をきちんと着ない」、「作業上のきまりを守らない」等服装の整備や規則の順守等をあげる傾向がみられる。また、「転職が多く指導の効果があがらない」というのは、小規模事業所になるほど多くなっている（第7表）

5 家庭教育・学校教育への要望

「青少年の安全衛生意識に関連して、学校や家庭でもっと力を入れて教育してほしいことがありますか」の設問に対し、約8割の事業所が「ある」と答えているが、「ある」と答えた事業所の割合は、大規模事業所になるほど高くなっている。

学校教育、家庭教育への要望で、もっとも多いのが「他人との協調性」で61.7%、

第7表 安全衛生に関する勤労青少年の指導上の問題の有無及び内容別事業所の構成

(6)

規 模	計	な い	指 導 上 困 る こ と が あ る (MA)											
			小 計	い い を守らな い	作業上の きまりを 守らない	注意力の 不足	校風がな い	体力の不 足	作業服を きちんと 着ない	髪髪をき ちんとし ない	余暇の遊 びすぎ	無断欠勤 ・遅刻が 多い	集積が多く 指導効果が あがない	そ の 他
計	100.0 (514)	52.5	47.5 100.0	17.6	17.6	39.4	34.4	8.2	21.7	29.1	18.9	31.1	10.6	8.2
1～29人	100.0 (296)	58.4	41.6 100.0	15.4	14.3	45.5	33.3	6.5	21.1	24.4	17.1	29.6	13.0	7.3
30～99人	100.0 (165)	49.1	50.9 100.0	20.2	19.0	35.7	33.3	11.9	17.9	28.5	21.4	33.3	9.5	8.3
100人以上	100.0 (53)	30.2	69.8 100.0	18.9	24.3	40.5	40.5	5.4	32.4	45.9	18.9	32.4	5.4	10.8

(注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

—11—

第8表 規模、家庭教育・学校教育への要望の有無及び内容別事業所の構成

(6)

規 模	計	な い	家 庭 教 育 ・ 学 校 教 育 で 力 を 入 れ て ほ し い こ と が あ る (MA)										
			小 計	職 業 意 識	き ま り を 守 る	他 人 と の 協 調 性	体 力 づ く り	機 敏 さ	器 用 さ	健 康 の 自 己 管 理	救 急 措 置	余 暇 指 導	そ の 他
計	100.0 (514)	20.8	79.1 100.0	58.7	46.4	61.7	8.4	9.3	2.2	42.3	4.4	12.8	6.1
1～29人	100.0 (296)	25.7	74.3 100.0	58.2	40.0	60.9	8.2	12.7	2.3	35.9	4.5	11.8	6.4
10～99人	100.0 (165)	14.5	85.5 100.0	55.3	48.9	63.8	8.5	5.7	2.8	52.5	4.3	14.2	5.7
100人以上	100.0 (53)	13.2	86.8 100.0	71.7	69.6	58.7	8.7	4.3	—	41.3	4.3	13.0	6.5

(注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ついで「職業意識」58.7%、「きまりを守る」46.4%、「健康の自己管理」42.3%、「余暇指導」12.8%、「機敏さ」9.3%、「体力づくり」8.4%、「救急措置」4.4%、「器用さ」2.2%、「その他」6.1%の順となっている。「その他」の内容は、人格形成、社会性、根気、礼儀、創造性、一般常識等に関するものや、親子の職業に対する対話、学校教育では特に職業指導、安全衛生教育、技術教育等の強化があげられている。

これを規模別にみると、「職業意識」、「他人との協調性」は、いずれの規模においても高い割合であげられているが、特に「職業意識」は100人以上の規模に多く約7割の事業所があげている。また、「きまりを守る」大規模事業所になるほど高く、100人以上は69.6%であるが、30～99人48.9%、1～29人の規模では40.0%となっている。このほか「健康の自己管理」をあげているのは30～99人規模の事業所が最も多い(第8表)。

個人調査

1 勤労青少年の個人的特性

調査対象となった勤労青少年は、2,077人で、そのうち男子が1,833人、女子が244人であって、事業所規模別には、1～29人が628人、30～99人が825人、100人以上が624人となっているが、勤労青少年の個人的特性をみると次のとおりである。

(1) 性

勤労青少年の性別構成は、男子が88.3％、女子が11.7％で、事業所規模が大きくなるほど女子の割合が高く、特に100人以上では2割を占めている（第1表）。

第1表 規模、性別勤労青少年の構成

	計	男	女
計	($\frac{100.0}{2077}$)	88.3	11.7
1～29人	($\frac{100.0}{628}$)	93.6	6.3
30～99人	($\frac{100.0}{825}$)	91.0	9.0
100人以上	($\frac{100.0}{624}$)	79.1	20.8

(2) 年令

勤労青少年の年令構成は、20～24才の者が最も多く全体の7割近くを占め、ついで18～19才の者で2割強、15～17才の者が約1割となっている。

これを性別にみると、男子よりも女子に年令層の高い者が多く、20～24才の者は、男子が66.4％であるのに対し、女子は73.4％となっている。

また、事業所規模別には、他規模に比べ30～99人規模に15～17才の若年層の割合がやや高く、反対に20～24才層の割合が低くなっている（第2表）。

第2表 性、規模、年齢階級別勤労青少年の構成

(%)

		計	15～17才	18～19才	20～24才	不 明
計		($\frac{100.0}{2077}$)	10.4	22.1	67.2	0.3
性	男	($\frac{100.0}{1833}$)	10.8	22.5	66.4	0.3
	女	($\frac{100.0}{2444}$)	7.4	19.3	73.4	—
規 模	1～29人	($\frac{100.0}{628}$)	8.4	21.3	70.2	—
	30～99人	($\frac{100.0}{825}$)	13.0	22.8	64.1	0.1
	100人以上	($\frac{100.0}{624}$)	9.0	22.0	68.3	0.8

(3) 学歴

勤労青少年の学歴構成は、中学卒が最も多く54.9%、ついで高校卒の42.2%、短大・大学卒は2.6%となっている。性別には、男子は中学卒が55.8%で最も割合が高いが、女子は中学卒より高校卒がやや高い(中学卒48.4%、高校卒49.2%)。短大・大学卒の割合は男子の方がわずかに高い。

事業所規模別にみると、中学卒の割合は小規模事業所になるほど高く、1～29人が61.0%、30～99人が57.9%、100人以上が44.7%となっ

第3表 性、規模、学歴別勤労青少年の構成

(%)

		計	中 学 卒	高 校 卒	短大・大学卒	不 明
計		($\frac{100.0}{2077}$)	54.9	42.2	2.6	0.2
性	男	($\frac{100.0}{1833}$)	55.8	41.3	2.7	0.2
	女	($\frac{100.0}{2444}$)	48.4	49.2	2.0	0.4
規 模	1～29人	($\frac{100.0}{628}$)	61.0	36.5	2.4	0.1
	30～99人	($\frac{100.0}{825}$)	57.9	39.6	2.4	—
	100人以上	($\frac{100.0}{624}$)	44.7	51.4	3.2	0.6

ており、高校卒は反対に大規模事業所になるほど割合が高い。短大・大学卒は100人以上が3.2%（その他の規模は2.4%）で最も多い（第3表）。

(4) 勤続年数

勤労青少年の勤続年数は、「1年以上3年未満」が最も多く35.6%、ついで「3年以上5年未満」の22.6%、「1年未満」の22.5%、「5年以上」の19.2%の順となっている。女子に比べ男子の方が勤続の長い者が多く、3年以上と3年未満に分けてみると、3年以上の者は、男子が42.6%、女子が35.6%となっている。

つぎに、規模別に、勤続3年以上の者と3年未満の者に分けてみると、3年以上の者は、30～99人規模に最も多く46.3%で半数に近く、ついで100人以上が44.8%となっており、1～29人規模は33.1%と少ない。しかし、勤続「1年未満」に限ってみると小規模事業所になるほど割合が高くなっており、特に1～29人規模では3割までを占めている（第4表）。

第4表 性、規模、勤続年数別勤労青少年の構成

(%)

性・規模		計	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上
計		(100.0 207.7)	22.5	35.6	22.6	19.2
性	男	(100.0 183.3)	22.6	34.8	22.9	19.7
	女	(100.0 244.4)	22.1	42.2	20.5	15.1
事業 所 規 模	1～29人	(100.0 62.8)	30.4	36.5	18.6	14.5
	30～99人	(100.0 82.5)	20.5	33.2	25.6	20.7
	100人以上	(100.0 62.4)	17.3	38.0	22.8	22.0

2 勤労青少年の就業の状況

(1) 職種

勤労青少年が従事している職種は、8割までが「金属加工作業」、2割が

「その他の作業」である。金属加工作業の中では、「電気溶接」(15.6%)、「旋盤・フライス盤など機械による加工」(13.4%)、「その他の金属加工」(12.3%)、「金属プレス」(8.7%)、「仕上」(8.4%)、「ガス溶接・切断」(5.6%)等に従事する者が多い。

調査対象者の9割が男子であるため、男子の状況は全平均の割合とはほぼ一致

第5表 職種、性別勤労青少年の構成

職 種		計	男	女
計		100.0 (2077)	100.0 (1833)	100.0 (244)
金 属 加 工 作 業	旋盤・フライス盤など機械による加工	13.4	14.9	1.6
	金 属 プ レ ス	8.7	9.5	2.5
	シ ャ ー	1.5	1.7	—
	電 気 溶 接	15.6	17.6	0.8
	ガ ス 溶 接 ・ 切 断	5.6	6.2	1.2
	鉄工・びゅう打・製かん	4.3	4.5	3.3
	ブリキ加工・板金	2.2	2.3	1.6
	金 属 彫 刻	0.1	0.1	0.4
	め っ き	2.5	2.6	1.2
	仕 上	8.4	8.0	11.5
	パ フ ミ ガ き	1.1	1.1	0.8
	針金製品・針・ばね製造	2.1	1.6	5.3
	その他の金属加工	12.3	11.7	17.2
そ の 他 の 作 業	運 搬	3.3	3.6	0.8
	記 録 ・ 製 図	3.6	3.7	2.9
	監 視 作 業	1.0	0.9	1.2
	事 務	6.1	1.6	39.3
	そ の 他	8.4	8.4	8.2

するが、従事する職種を女子のみに限ってみると、半数以上が「その他の作業」であり、その中でも事務が4割を占めている。金属加工作業のうち女子が従事する割合が高いのは、「その他の金属加工」（17.2%）、「仕上」（11.5%）等である（第5表）。

(2) 仕事の経験

他の事業所に勤めていた場合も含めて、現在の仕事の経験年数をみると、「1年以上3年未満」が最も多く36.4%、ついで「1年未満」の26.0%、「3年以上5年未満」の21.6%、「5年以上」の15.9%の順となっている。仕事の経験年数別構成と勤続年数別構成を比較してみると、勤続年数より経験年数の方が下回っているとみられ、他の事業所で現在と同一の職種に就いていた場合は少なく、調査事業所での経験が仕事の経験年数になっている場合が多いと思われる。

職種別に経験年数をみると、「旋盤・フライス盤など機械による加工」、「電気溶接」、「ガス溶接」、「鉄工・びょう打・製かん」、「ブリキ加工・板金」、「めっき」、「バフみがき」等は、比較的経験年数の長い者の割合が高い（例示した職種は勤続3年以上の者が4割以上）。一方、「シャー」、「運搬」、「記録・製図」、「事務」等は比較的経験年数の短い者の割合が高い（例示した職種は勤続3年未満が7割以上）（第6表）。

性別には、女子よりも男子に経験年数の長い者が多く、また、事業所規模別には、規模の小さい事業所に経験年数の長い者がやや多い（付表1）。

(3) 勤務形態

勤労青少年の勤務形態をみると、95.0%（1,973人）が日勤で、5.0%（104人）が交替制勤務であり、交替制勤務者はすべて男子である。

そこで、男子のみについて勤務形態をみると、日勤が94.3%、交替勤務が5.7%となるが、大規模事業所ほど交替勤務者の割合が高く、100人以上では12.1%を占めるが、30～99人では4.7%、1～29人規模では1.5%にすぎない。

第6表 職種、現在の仕事の経験年数別勤労青少年の構成

(例)

職 種		計	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	不 明
計		100.0 (2,077)	26.0	36.4	21.6	15.9	0.1
金 属 加 工 作 業	旋盤・フライス盤など機械による加工	100.0 (278)	25.5	30.9	25.5	18.0	—
	金 属 プ レ ス	100.0 (180)	20.0	41.7	18.3	20.0	—
	シ ャ ー	100.0 (31)	22.6	48.4	12.9	16.1	—
	電 気 溶 接	100.0 (324)	23.5	31.8	23.5	21.3	—
	ガ ス 溶 接 ・ 切 断	100.0 (116)	25.9	27.6	31.0	15.5	—
	鉄工・びょう打・製かん	100.0 (90)	22.2	36.7	21.1	20.0	—
	ブリキ加工・板金	100.0 (46)	13.0	37.0	32.6	17.4	—
	金 属 彫 刻	100.0 (3)	—	33.3	—	66.7	—
	め っ き	100.0 (51)	29.4	29.4	15.7	25.5	—
	仕 上	100.0 (175)	32.6	33.7	16.6	17.1	—
	バ フ み が き	100.0 (22)	31.8	27.3	18.2	22.7	—
	針金製品・針・ばね製造	100.0 (43)	34.9	32.6	11.6	20.9	—
	その他の金属加工	100.0 (256)	26.2	41.4	23.0	9.0	0.4
そ の 他 の 作 業	運 搬	100.0 (88)	26.5	48.5	14.7	10.3	—
	記 録 ・ 製 図	100.0 (74)	32.4	40.5	21.6	4.1	1.4
	監 視 作 業	100.0 (20)	30.0	45.0	20.0	5.0	—
	事 務	100.0 (126)	27.0	45.2	19.8	7.9	—
	そ の 他	100.0 (174)	29.3	36.8	20.1	13.8	—

交替勤務者の内訳は、2交替が3.3%、3交替が1.9%、その他が0.5%と
なっている(第7表)。

第7表 規模、勤務形態別勤労青少年の構成

男子=100%

規 模	計	日 勤	交 替 制 勤 務			
			小 計	2交替	3交替	その他
計	($\begin{smallmatrix} 100.0 \\ 1.833 \end{smallmatrix}$)	94.3	5.7	3.3	1.9	0.5
1～29人	($\begin{smallmatrix} 100.0 \\ 5.88 \end{smallmatrix}$)	98.5	1.5	1.4	0.2	—
30～99人	($\begin{smallmatrix} 100.0 \\ 7.51 \end{smallmatrix}$)	95.3	4.7	2.0	2.3	0.4
100人以上	($\begin{smallmatrix} 100.0 \\ 4.94 \end{smallmatrix}$)	87.9	12.1	7.5	3.4	1.2

3 勤労青少年の仕事上のけが・病気の状況とけが・病気に対する不安

(1) 仕事上のけが・病気

「この1年くらいの間に仕事上のけがをしたり、病気になったことはありますか」とたずねたところ、約7割の者は「なかった」と答えたが、約3割の者が「あった」と答えている。

仕事上のけが・病気が「あった」と答えた者は、性別には男子に多い（男子31.0%，女子14.3%）。

年齢階級別には、けが・病気が「あった」と答えた者は15～17才が36.1%，18～19才が32.5%，20～24才が26.8%で、若年層ほど割合が高い。

また、経験年数別には、けが・病気が「あった」と答えた者は、「1年未満」が最も割合が低い（1.8%）が、経験1年以上になると経験が短い者ほど割合が高くなっている。

事業所規模別には、小規模事業所になるほど「あった」と答えた者の割合が高い（第8表の1）。

つぎに、仕事上でけが・病気をした勤労青少年について、休業の有無及び障害の有無をみると第8表の2のとおりである。休業の有無については、53.3

第8表の1 性、年齢階級、経験年数、規模、過去1年間における仕事上の
のけが・病気の有無別青少年の構成

(%)

		計	なかった	あった
計		(1 0 0.0 2.0 7 7)	7 0.9	2 9.1
性	男	(1 0 0.0 1.8 3 3)	6 9.0	3 1.0
	女	(1 0 0.0 2.4 4 4)	8 5.7	1 4.3
年 令	1 5 ～ 1 7 才	(1 0 0.0 2.1 6)	6 3.9	3 6.1
	1 8 ～ 1 9 才	(1 0 0.0 4.5 9)	6 7.5	3 2.5
	2 0 ～ 2 4 才	(1 0 0.0 1.3 9 6)	7 3.2	2 6.8
	不 明	(1 0 0.0 6)	5 0.0	5 0.0
経験年数	1 年 未 満	(1 0 0.0 5.4 0)	7 3.9	2 6.1
	1 ～ 3 年未満	(1 0 0.0 7.5 5)	6 7.9	3 2.1
	3 ～ 5 年未満	(1 0 0.0 4.4 9)	7 0.2	2 9.8
	5 年 以 上	(1 0 0.0 3.3 1)	7 3.7	2 6.3
	不 明	(1 0 0.0 2)	1 0 0.0	—
規 模	1 ～ 2 9 人	(1 0 0.0 6.2 8)	6 8.2	3 1.8
	3 0 ～ 9 9 人	(1 0 0.0 8.2 5)	7 1.2	2 8.8
	1 0 0 人以上	(1 0 0.0 6.2 4)	7 3.4	2 6.6

％の者が「休んだ」と答えており、半数をやや上回っている。障害の有無については、2割の者が「残った」と答えている。

性別にみると、男子よりも女子が「休んだ」者（男子52.2％、女子71.2％）及び「障害が残った」（男子18.5％、女子28.6％）と答えた者の割合が高い。

年齢階級別には、若年齢層ほど「休んだ」者の割合が高いが、「障害が残った」者は、反対に年齢層が高い者ほど割合が多く15～17才が15.4％、18～19才が18.1％、20～24才が20.3％となっている。

経験年数別にみると、「休んだ」と答えた者は、「1年未満」49.6％，「1年以上3年未満」54.1％，「3年以上5年未満」48.5％，「5年以上」64.4％で、「5年以上」に特に割合が高い。「障害が残った」と答えた者は「1年未満」が14.9％と低い。1年以上では、経験による相違はほとんどなく約2割である。

事業所規模別には、「休んだ」と答えた者は、小規模事業所ほど割合が高いが、「障害が残った」と答えた者は大規模事業所になほど割合が高く、1

第8表の2 性、年齢階級、経験年数、規模、けが・病気等の状況別
勤労青少年の構成

(病気・けがをした勤労青少年＝100％)

		計	休業の有無			障害の有無		
			休んだ	休まなかった	不明	残った	残らなかった	不明
計		100.0 (604)	53.3	46.4	3.3	19.0	79.1	1.8
性	男	100.0 (569)	52.2	47.5	3.5	18.5	80.0	1.6
	女	100.0 (35)	71.2	28.6	—	28.6	65.7	5.7
年齢	15～17才	100.0 (78)	59.0	41.0	—	15.4	82.1	2.6
	18～19才	100.0 (149)	53.0	47.0	—	18.1	80.5	1.3
	20～24才	100.0 (374)	52.4	47.1	0.5	20.3	77.8	1.9
	不明	100.0 (3)	33.3	66.6	—	—	100.0	—
経験年数	1年未満	100.0 (141)	49.6	50.4	—	14.9	83.7	1.4
	1年以上3年未満	100.0 (242)	54.1	45.5	0.4	20.7	76.4	2.9
	3年以上5年未満	100.0 (134)	48.5	51.5	—	19.4	79.1	1.5
	5年以上	100.0 (87)	64.4	34.5	1.1	20.7	79.3	—
規模	1～29人	100.0 (81)	59.5	40.5	—	17.5	81.0	1.5
	30～99人	100.0 (111)	52.9	46.6	0.4	18.5	79.4	2.1
	100人以上	100.0 (88)	46.4	53.0	0.6	21.7	76.5	1.8

～29人が17.5％，30～99人が18.5％であるのに対し，100人以上が21.7％となっている。

(2) 同僚の仕事上のけが・病気の状況

「この1年くらいの間に，同じ事業所の青少年で仕事上けがをしたり，病気になった人がいますか」とたずねたところ，「いた」と答えた者が45.3％，「いなかった」と答えた者が52.9％である。

事業所規模別には，同僚にけが・病気になった者が「いた」と答えた者は，30～99人規模が最も多く52.2％，ついで100人以上の46.5％で，1～29人規模は35.0％で平均をかなり下回っている（第9表）。

（注：同僚のけが・病気の有無は，実際の状況とは相違があるとみられるが，ここでは，同僚のけが・病気に対する認識の状況及びそれが勤労青少年の意識にどんな影響を及ぼしているかをみようとしたものである）

第9表 規模，同僚の被災の有無別勤労青少年数

(%)

	計	い た	いなかった	不 明
計	($\frac{100.0}{2077}$)	45.3	52.9	1.8
1～29人	($\frac{100.0}{628}$)	35.0	63.2	1.8
30～99人	($\frac{100.0}{825}$)	52.2	46.7	1.1
100人以上	($\frac{100.0}{624}$)	46.5	50.6	2.9

(3) 仕事上のけが・病気に対する不安

「もしあなたが仕事上，大けがをしたり病気になったら，と考えることがありますか」とたずねたところ，約6割の者が「ある」と答えている。

不安が「ある」と答えた者について，不安の内容をみると，最も多いのが「身体・生命にかかわる」の51.4％，ついで「親に心配をかける」39.7％，「生活に困る」35.8％，「職業上の将来性」19.6％，「同僚にめいわく」

13.9%, 「結婚相手が見つけない」9.0%, 「会社に損害を与える」7.9%, 「相談相手がいない」2.2%, 「その他」1.3%の順となっている。「その他」の内容は、莫然とした不安、後遺症の心配、補償問題等をあげている。

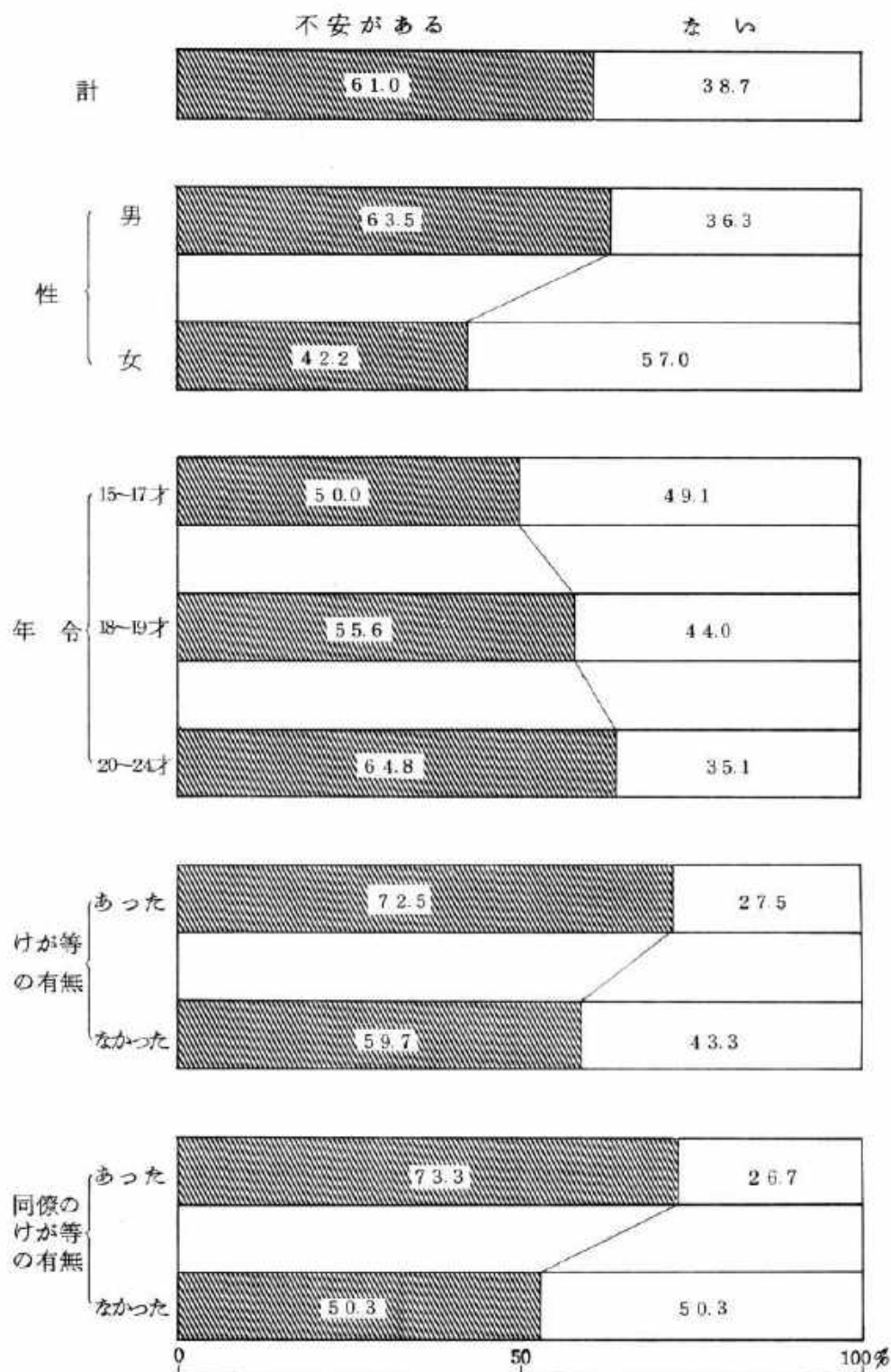
性別には、不安が「ある」と答えた者は女子より男子に多い(男子63.5%, 女子42.2%)。不安の内容は「親に心配をかける」、「同僚にめいわくをかける」と答えた者は女子の方が男子の割合を上回っており、特に「親に心配をかける」は、女子の約半数があげ最大の不安となっている。一方、「身体・生命にかかわる」、「生活に困る」、「職業上の将来性」等をあげる者は男子の方が割合が高い。

年齢階級別には、年齢層の高い者ほど不安が「ある」と答える割合が高く、15～17才が50.0%, 18～19才が55.6%, 20～24才が64.8%となっている。不安の内容は、「生活に困る」と答えた者以外は、おおむね若年層の方が不安を感じている割合が高く出ており、特に「親に心配をかける」と答えた者は、15～17才が51.9%, 18～19才が46.7%, 20～24才が36.2%となっている。「生活に困る」と答えた者は、15～17才が19.4%, 18～19才が27.8%, 20～24才が40.3%で年齢層が高い者ほど大きな比重を占めているといえる。

つぎに、仕事上のけが等の有無別にみると、けが等があった者の方が不安が「ある」と答えた者の割合が高く72.5%, 一方、けが等がなかった者は59.7%である。不安の内容については、けが等の有無による違いはほとんどみられないが「親に心配をかける」、「生活に困る」、「結婚相手がみつけない」等は、あった者の方がやや割合が高い。

さらに、同僚のけが等の有無別にみると、不安が「ある」と答えた者は、同僚にけが等をした者がいる場合が73.3%, いない場合が52.6%で前者の方がかなり割合が高く、自分自身がけが等を体験した場合のみならず、同僚のけが等を身近に経験した場合にもけがや病気に対する不安が大きいことを示している(図1, 第10表)。

図1 性、年齢、けが等の有無、同僚の被災の有無、被災に対する不安の有無別勤労青少年の構成



第 10 表 性、年齢、仕事上のけが・病気の有無、同僚のけが・病気の有無、けが・病気に対する不安の有無及び内容別勤労青少年の構成

(※)

		仕事上のけが・病気に対する不安がある (MA)												
	計	ない	小計	身体・ 生命にかかわ る	会社に 損害を 与える	同僚に めいわ く	相談相 手が ない	職業上 の将来 性	結婚相 手がみ つけに くい	親に心 配をか ける	生活に 困る	その他	不明	
性	計	100.0 (2,077)	38.7	61.0 100.0	51.4	7.9	13.9	2.2	19.6	9.0	39.7	35.8	1.3	0.2
	男	100.0 (1,833)	36.3	63.5 100.0	52.8	8.2	12.9	1.8	20.5	9.2	39.1	36.8	1.3	—
	女	100.0 (244)	57.0	42.2 100.0	37.9	5.8	26.2	6.8	10.7	7.8	48.5	27.2	1.0	2.0
年 令	15～17才	100.0 (216)	49.1	50.0 100.0	54.6	13.0	17.6	2.8	17.6	9.3	51.9	19.4	—	—
	18～19才	100.0 (459)	44.0	55.6 100.0	51.0	9.4	16.9	2.0	20.0	18.2	46.7	27.8	2.0	—
	20～24才	100.0 (1,396)	35.1	64.8 100.0	51.3	6.9	12.7	2.2	19.9	9.1	36.2	40.3	1.3	0.1
けの が有 等無	不 明	100.0 (6)	50.0	50.0 100.0	33.3	33.3	—	—	—	—	66.6	100.0	—	—
	あ っ た	100.0 (604)	27.5	72.5 100.0	50.5	8.9	15.1	1.6	18.0	10.5	41.6	37.0	1.4	0.2
	な か っ た	100.0 (1,473)	43.3	56.7 100.0	51.9	7.4	13.3	2.5	20.5	8.3	38.7	35.2	1.2	—
同 僚 が の 等	あ っ た	100.0 (941)	26.7	73.3 100.0	48.3	6.8	13.5	1.0	19.4	8.3	39.1	35.7	1.0	0.1
	な か っ た (不明を含む)	100.0 (1,098)	50.3	49.7 100.0	55.6	9.4	14.6	3.6	20.1	10.1	40.7	36.4	1.6	0.2

注) 多様式のため、不安が「ある」の内訳は、小計を上回る。

4 勤労青少年の職場生活についての意識

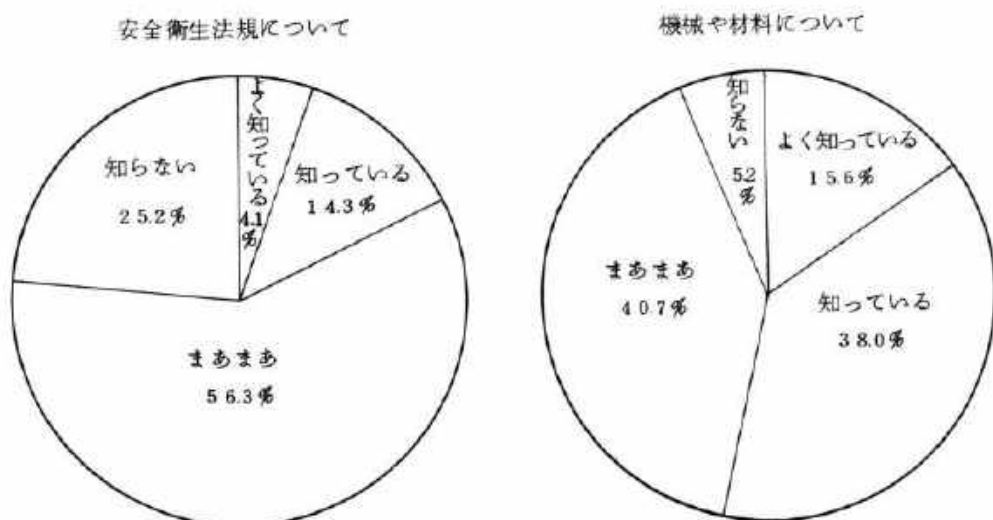
(1) 仕事に関連した知識

イ 安全衛生関係の法律や規則について

安全衛生関係の法律や規則について、勤労青少年がどの程度の知識を持っているかをたずねたところ、「まあまあ」と答えた者が最も多く56.3％、ついで「知らない」の25.2％、「知っている」の14.3％、「よく知っている」の4.1％の順となっている。知識の程度の違いはあるが4分の3の者は知識があるという意識を持っているが、4分の1の者は知識がないと答えている。

仕事の経験年数別にみると、経験の長い者ほど知識があると答えている者の割合が高く、特に「5年以上」になると、「よく知っている」、「知っている」と答えた者はあわせて約3割となっている。反対に、安全衛生関係法規を知らない者は、経験の短い者ほど高い割合を占め、「1年未満」は32.6％、「1年以上3年未満」が26.1％、「3年以上5年未満」22.7％、「5年以上」が14.7％となっている。

図2 仕事上の知識の程度別勤労青少年の構成



規模別にはほとんど相違がみられないが、100人以上の規模で「知らない」と答えた者の割合がやや低く、知識の程度では「まあまあ」と答えた者の割合が高い（図2、第11表）。

第11表 経験年数、規模、安全衛生に関する法律・規則に対する
知識の程度別勤労青少年の構成

(%)

		計	よく知っている	知っている	まあまあ	知らない	不明
計		100.0 (2077)	4.1	14.3	56.3	25.2	0.0
経験年数	1年未満	100.0 (540)	2.2	10.6	54.6	32.6	—
	1年以上3年未満	100.0 (755)	2.4	15.5	55.9	26.1	0.1
	3年以上5年未満	100.0 (449)	4.5	12.0	60.8	22.7	—
	5年以上	100.0 (333)	10.8	20.7	53.8	14.7	—
事業所規模	1～29人	100.0 (628)	4.8	13.5	55.3	26.4	—
	30～99人	100.0 (825)	5.0	13.2	55.6	26.2	0.2
	100人以上	100.0 (624)	2.4	16.5	58.2	22.8	—

ロ 機械や材料について

イと同様に自分の使う機械や材料に関する知識についてたずねたところ、「まあまあ」が40.7%、「知っている」が38.0%、「よく知っている」が15.6%、「知らない」が5.2%となっている。法律や規則に較べて「知らない」と答えた者が少なく、知識の程度も「まあまあ」と答えた者よりも「よく知っている」、「知っている」と答えた者の割合が高く、自信のある回答となっている。

経験年数別にみると、経験の長い者ほど知識があると回答している者が多く、「5年以上」では、「知らない」と答えた者は1.2%にすぎない。知識の程度も、「まあまあ」と答えた者は、経験の長い者ほど割合が低く、反対に「よく知っている」、「知っている」と答えた者はあわせて「1年未満」

が31.4%，「1年以上3年未満」が56.6%，「3年以上5年未満」が58.8%，「5年以上」が75.3%で，経験の長い者ほど割合が高い。

規模別には，知識の有無，程度ともにさほど差がみられないが，「よく知っている」と答えた者の割合は，小規模事業所になるほど高く，1～29人が18.8%，30～99人が15.6%，100人以上が12.5%となっている（図2，第12表）。

第12表 経験年数，規模，機械や材料に関する知識の
程度別勤労青少年の構成

(%)

		計	よく知っている	知っている	まあまあ	知らない	不明
計		($\frac{100.0}{2077}$)	15.6	38.0	40.7	5.2	0.5
経験年数	1年未満	($\frac{100.0}{540}$)	6.5	25.2	55.9	12.0	0.4
	1年以上3年未満	($\frac{100.0}{755}$)	13.6	43.0	39.2	3.3	0.8
	3年以上5年未満	($\frac{100.0}{449}$)	18.5	40.3	37.6	3.1	0.4
	5年以上	($\frac{100.0}{333}$)	31.2	44.1	23.4	1.2	—
事業所規模	1～29人	($\frac{100.0}{628}$)	18.8	37.4	37.9	4.9	1.0
	30～99人	($\frac{100.0}{825}$)	15.5	36.4	41.9	5.8	0.2
	100人以上	($\frac{100.0}{624}$)	12.5	40.7	41.8	4.6	0.3

(2) 安全衛生に関する事業所の指導に対する意識

「安全衛生に関して作業や服装についての事業所のきまりや指導をどう思いますか」とたずねたところ，「当然だと思う」と答えた者が最も多く63.7%，ついで「何ともいえない」の25.0%で，「守りにくい」が6.9%，「反発を感じる」が4.2%となっており，「守りにくい」，「反発を感じる」と答えた者はあわせて約1割である。

性別にみると，「当然だと思う」という者の割合は女子が多い。

年令階級別にみると「当然だと思う」と答えた者の割合は、15～17才が52.3%で最も低く、約65%を占める18才以上層との相違がみられるが、「守りにくい」、「反発を感じる」は、各年令層でほとんど差がみられず、「何ともいえない」と答えた者が15～17才の若年層が36.1%で、約24%を占める18才以上層と対照的な結果を示している。

仕事の経験年数別にみると、「当然だと思う」と答えた者は、経験の長い者の方が割合が高い傾向がみられ、特に「5年以上」では7割近くを占めており、「何ともいえない」と答えた者は、反対に経験の短い者ほど割合が高い。また、

第13表 性、年令階級、経験年数、事業所の規則・指導に対する意識別勤労青少年の構成

(%)

		計	当然だ と思う	守りに くい	反発を 感じる	何ともい えない	不 明
計		(1 0 0.0 2, 0 7 7)	6 3. 7	6. 9	4. 2	2 5. 0	3. 1
性	男	(1 0 0.0 1, 8 3 3)	6 3. 0	7. 3	4. 3	2 5. 4	0. 2
	女	(1 0 0.0 2 4 4)	6 9. 3	4. 5	4. 1	2 2. 1	—
年 令	1 5 ～ 1 7 才	(1 0 0.0 2 1 6)	5 2. 3	6. 9	4. 6	3 6. 1	—
	1 8 ～ 1 9 才	(1 0 0.0 4 5 9)	6 4. 4	7. 2	4. 1	2 4. 0	0. 2
	2 0 ～ 2 4 才	(1 0 0.0 1, 3 9 6)	6 5. 3	6. 7	4. 2	2 3. 5	0. 1
	不 明	(1 0 0.0 6)	3 3. 3	3 3. 3	—	3 3. 3	—
経 験 年 数	1 年 未 満	(1 0 0.0 5 4 0)	6 0. 4	6. 1	4. 6	2 8. 7	0. 2
	1年以上3年未満	(1 0 0.0 7 5 5)	6 4. 2	7. 0	3. 7	2 4. 9	0. 1
	3年以上5年未満	(1 0 0.0 4 1 9)	5 3. 5	7. 3	5. 8	2 3. 2	0. 2
	5 年 以 上	(1 0 0.0 3 3 1)	6 8. 3	7. 6	2. 7	2 1. 5	—
	不 明	(1 0 0.0 2)	5 0. 0	—	—	5 0. 0	—
被災の有無	あ り	(1 0 0.0 6 0 4)	5 5. 5	9. 4	6. 1	2 8. 8	0. 2
	な し	(1 0 0.0 1, 4 7 3)	6 7. 1	5. 9	3. 5	2 3. 4	0. 1

「守りにくい」と答えた者は、経験が長いほどわずかずつ割合が高くなっているが、「反発を感じる」と答えた者は、「3年以上5年未満」の中堅層に最も割合が高い。

つぎに、仕事上のけが等の有無別にみると、「当然だと思う」と答えた者は、けが等があった者が55.5％、なかった者が67.1％であり、後者の方が割合が高い。一方、「守りにくい」、「反発を感じる」と答えた者は両方ともけが等のあった者の方が割合が高く、けが等のなかった者の方が、事業所のきまり・指導を受け入れている傾向がみられる。また「何ともいえない」と答えた者も、けが等のあった者に多い(第13表)。

つぎに、事業所の規則・指導が「守りにくい」、「反発を感じる」と答えた者についてその理由をみると、「作業がしにくい」が最も多く29.3％、ついで「わずらわしい」13.4％、「干渉しすぎる」9.9％、「かっこ悪い」、「意味がない」がそれぞれ9.1％、「何となく」7.3％、「厳しすぎる」5.2％、「その他」5.6％となっており、「その他」の内容としては、作業服・安全具が自己負担、事業所の指導がおざなり、安全帽は夏暑すぎる、安全靴は水虫になる等があげられている(付表2)。

(3) 職業継続の意志

「今の職業を続けたいですか(別の事業所で続ける場合でもよい)」とたずねたところ「続けたい」、「わからない」と答えた者がそれぞれ約4割で「職業を変えたい」と答えた者は約2割である。「職業を変えたい」という者についてその理由をみると、「向いてない」が最も多く37.4％で全体の4割近くを占めるほか、「単調すぎる」24.6％、「労働がはげしい」15.2％が主な理由になっている。また、「緊張する」は4.0％、「むずかしい」は3.5％、「その他」が13.9％となっており、「その他」の内容には、他にやりたいことがある、将来性がない、職場環境が悪い(空気が汚い等)、賃金、休日等労

働条件が悪い、家業につく予定等をあげている。

性別には、「続けたい」と答えた者は男子の方が多く（男子42.3％，女子38.1％），女子は「わからない」と答えた者が43.4％で最も多い。

年齢階級別には、「続けたい」と答えた者は20～24才に多く43.4％（20才未満は約38％）を占めるが、「職業を変えたい」と答えた者は，18～19才が最も多く20.5％，ついで20～24才の17.8％で，15～17才は13.9％と少なく職業を「続けたい」と答えなかった者と「職業を変えたい」と答えた者の関連はみられず，若年層ほど「わからない」と答えた者が多く，15～17才では半数近くを占めている。「職業を変えたい」理由は，若年層ほど「向いてない」をあげ，15～17才が63.3％，18～19才が41.5％，20～24才が33.3％となっているが，「単調すぎる」と答えた者は，18才以上に多い。

学歴別には，「続けたい」と答えた者は，短大・大学卒に多く61.8％，高校卒（41.8％），中学卒（40.8％）は，ほとんど差がない。「職業を変えたい」と答えた者は，高校卒に多く21.1％，ついで中学卒の16.1％で，短大・大学卒は9.1％と少ない。「わからない」と答えた者は中学卒に多い。

つぎに，仕事上のけが等の有無別にみるとけが等がなかった者の方が職業継続意志が高く，「続けたい」と答えた者はけが等があった者が32.3％，なかった者が45.7％で，一方，「職業を変えたい」と答えた者は，前者が22.2％，後者が15.6％となっている。けが等があった者の場合，職業を変えたい理由は，「向いてない」と答えた者が多く半数近くを占める。また，今の職業を続けるかどうか「わからない」と答えた者も，けが等があった者に多い（第14表）。

ここで，職場生活における勤労青少年の意識を，仕事上のけが等のあった者となかった者を比較してみると，先に述べたように，安全衛生に関する事業所の指導やきまり等は，けが等のなかった者の方が多く受け入れており，職業継

第14表 性、年齢階級、学歴、仕事上のけが等の有無・職業継続意志別勤労青少年の構成

(%)

	計	続けたい	職業を変えたい (MA)							わからない	不明	
			小計	向いてない	むずかしい	労働がはげしい	単調すぎる	緊張する	その他			不明
性	計	100.0 (2077)	41.8	18.7 100.0	37.4	3.5	15.2	24.6	4.0	13.9	40.1	0.1
	男	100.0 (1833)	42.3	17.9 100.0	38.6	3.6	15.2	24.6	3.6	12.8	39.6	0.2
	女	100.0 (244)	38.1	18.4 100.0	28.9	2.2	15.6	24.4	6.7	22.2	43.4	—
年齢	15~17才	100.0 (216)	38.0	13.9 100.0	63.3	3.3	16.7	13.3	6.6	3.3	48.1	—
	18~19才	100.0 (459)	33.6	20.5 100.0	41.5	4.3	13.8	29.8	1.1	8.5	41.0	—
学歴	20~24才	100.0 (1396)	43.4	17.8 100.0	33.3	3.2	15.7	24.1	4.8	17.3	38.5	—
	不明	100.0 (6)	50.0	16.7 100.0	100.0	—	—	—	—	—	33.3	—
学歴	中学卒	100.0 (1140)	40.8	16.1 100.0	39.3	4.9	16.4	24.6	3.8	10.4	43.0	0.2
	高校卒	100.0 (877)	41.8	21.1 100.0	36.2	2.2	13.5	24.3	4.3	17.8	36.9	0.2
学歴	短大・大学卒	100.0 (55)	51.8	9.1 100.0	20.0	—	20.0	40.0	—	—	29.1	—
	不明	100.0 (5)	40.0	20.0 100.0	—	—	100.0	—	—	—	40.0	—
けがの有無	あった	100.0 (604)	32.3	22.2 100.0	44.8	5.2	14.2	24.6	4.5	6.7	45.6	—
	なかった	100.0 (1473)	45.7	15.6 100.0	34.8	2.6	16.5	25.7	3.9	1.9	37.8	0.2

注) 多答式のため「職業を変えたい」の内訳は小計を上回る。

続意志も、けが等をした者は職業を変えたいと答えた者が多いなど、けが等のなかった者の方が、職場生活や仕事そのものへの適応が、けが等をした者よりも高いことを示しているように思われ、職場生活や仕事への適応の問題も、勤労青少年のけが等と関連があるとみられる。

5 勤労青少年の日常（職場外生活）の生活態度

(1) 健康上の留意事項

「ふだん健康についてどんなことをしていますか」とたずねたところ、最も多いのが「睡眠を充分とる」の51.7%、ついで「体操や運動をする」32.1%、「食事に気をつける」24.1%、「仕事のことを考えて生活をコントロールする」15.1%、「栄養剤などを飲む」3.2%、「その他」1.0%の順となっているが、「その他」の内容としては、ストレス解消のための旅行・レクリエーション活動、酒をのむ、無理をしない、昼寝等となっている。

一方、健康について「何もしない」と答えた者は27.8%である。

これを性別にみると、「睡眠を充分とる」や「食事に気をつける」という者は男子よりも女子の割合が高く、「体操や運動をする」という者は男子の方が割合が高い（男子34.3%、女子16.0%）、「何もしない」という者は女子よりも男子がやや多い。

年令階級別にみると、年令層による相違は特に見られないが、「睡眠を充分とる」と答えた者は20～24才層において他の年令層より高い割合を占める他、「体操や運動をする」と答えた者は15～17才の若年層に多い。「何もしない」と答えた者は15～17才が30.1%、18～19才が33.8%、20～24才が25.5%と分かれている。

つぎに、けが等の有無別にみると、概してけが等のなかった者の方が健康に留意している傾向がみられる。すなわち「睡眠を充分とる」と答えた者はけが等のあった者は46.0%であるが、なかった者は54.0%、「食事に気をつける」と答えた者は、前者が20.9%、後者が25.4%であり、一方、「何もし

第15表 性、年齢、けが等の有無、健康上の留意事項別
勤労青少年の構成（MA）

(%)

		計	睡眠を 充分と る	食事に 気をつ ける	体操や 運動を する	栄養剤 などを 飲む	仕事の ことを 考え 生活 コン ロール する	その他	何もし ていな い	不 明
計		100.0 (2,077)	51.7	24.1	32.1	3.2	15.1	1.0	27.8	0.2
性	男	100.0 (1,833)	49.8	23.1	34.1	3.2	15.1	1.0	28.2	0.3
	女	100.0 (244)	65.6	31.6	16.0	3.7	15.2	0.8	24.6	—
年 令	15～17才	100.0 (216)	48.1	20.4	36.1	1.4	15.3	0.5	30.1	0.9
	18～19才	100.0 (459)	46.2	24.2	30.1	2.8	11.8	0.9	33.8	0.2
	20～24才	100.0 (1,396)	54.0	24.6	32.1	3.5	16.3	1.1	25.5	0.1
	不 明	100.0 (6)	50.0	16.7	50.0	33.3	—	—	16.7	—
けの が有 等無	あ っ た	100.0 (604)	46.0	20.9	31.8	4.3	15.7	1.3	30.1	0.2
	な かつ た	100.0 (1,473)	54.0	25.4	32.2	2.8	14.9	0.8	26.8	0.3

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

「していない」と答えた者は前者が30.1%、後者が26.8%となっている(第15表)。

(2) 生活態度に起因する遅刻、欠勤

「この半年くらいの間に、遊びや夜ふかしによる遅刻や欠勤がありましたか」とたずねたところ、「あった」と答えた者は35.6%で約3分の1を占める。また、「あった」と答えた者の66.5%が「どくたまに」であり、26.2%が「時々」、7.3%が「何ともいえない」となっている。

遊びや夜ふかしによる遅刻・欠勤があった者も、性別にみると男子37.5%、女子21.3%で女子の割合が少なく、その内訳も、「どくたまに」と答えた者が多く、女子の方がひん度も少ないといえる。

年令階級別にみると、「あった」と答えた者は15～17才が37.0%，18～19才が36.4%，20～24才が35.1%で、若年層ほどわずかつ割合が高いが、その内訳は、15～17才の場合、他の年令層に比べ「ごくたま」に」と答えた者が多く、ひん度は少ないといえる。

けが等の有無別にみると、けが等があったと答えた者の42.1%が、また、なかったと答えた者の32.6%が、遅刻・欠勤があったと答え、前者の方が割合が高い。その内訳も「時々」と答えた者は、けが等があった者が29.1%，なかった者が24.1%で、「ごくたまに」と答えた者は前者が後者を下回り、けが等があった者の方がひん度も高いといえる（第16表）。

ここで、日常生活の態度について、けが等のあった者となかった者を比較してみると、先に述べたように、健康のために睡眠や食事等に気をつけていると

第16表 性、年令、けが等の有無、生活態度に起因する
遅刻・欠勤の有無別勤労青少年の構成

(%)

		計	なかった	遊びや夜ふかしによる遅刻・欠勤があった				不 明
				小 計	時 々	ごくたまに	何ともいえない	
計		100.0 (2,077)	64.3	35.6 100.0	26.2	66.5	7.3	0.0
性	男	100.0 (1,833)	62.5	37.5 100.0	26.7	66.3	7.0	—
	女	100.0 (244)	78.3	21.3 100.0	19.2	69.2	11.5	0.4
年 令	15～17才	100.0 (216)	63.0	37.0 100.0	23.8	71.3	5.0	—
	17～19才	100.0 (459)	63.6	36.4 100.0	27.5	65.3	7.2	—
	20～24才	100.0 (1,396)	64.8	35.1 100.0	26.3	65.1	7.7	0.1
	不 明	100.0 (6)	50.0 (6)	50.0 100.0	—	100.0	—	—
けの が有 等無	あ っ た	100.0 (504)	57.9	42.1 100.0	29.1	65.0	5.9	0.2
	な か っ た	100.0 (1,473)	57.4	32.6 100.0	24.7	68.1	8.1	—

いう者は、けが等がなかった者の方が割合が高く、また、夜ふかしや遊び等で

の欠勤・遅刻状況もけが等をしなかった者の方が割合も低く、欠勤・遅刻の回数も少ない等、両者の生活態度の相違がみられる。

(3) 昼休みの過ごし方

ここ1カ月位(50年6～7月)の昼休みの過ごし方についてたずねたところ、結果を多い順にあげると、「雑談」36.3%、「読書・新聞・テレビ」32.4%、「昼寝」30.0%、「体操やキャッチボール程度の運動」23.3%、「スポーツ」15.0%、「碁・将棋・トランプなど」12.4%、「散歩」5.1%、「買物」3.1%、「その他」4.6%となっている。「雑談」、「読書・新聞・テレビ」、「昼寝」の三つが上位を占めるが「体操やキャッチボール程度の運動」と「スポーツ」をあわせると約4割の者が運動やスポーツで過ごし青少年の若さや活動的な面を示しているが、調査対象に男子が多いことも関連しているとみられる。「その他」の過ごし方の内容としては、何もせずぼんやり過ごす、喫茶店・スナック等で過ごす、手芸・編物、レコード・ギター・ピアノ

第17表 性、年齢階級、昼休みの過ごし方別勤労青少年の構成(MA)

(%)

		計	体操や キャッ チボー ル程度 の運動	スポー ツ	碁・将 棋・ト ランプ など	買 物	散 歩	雑 談	昼 寝	読書・ 新聞・ テレビ	その他	不 明
計		100.0 (2,077)	23.3	15.0	12.4	3.1	5.1	36.3	30.0	32.4	4.6	0.1
性	男	100.0 (1,833)	25.8	15.8	14.2	1.5	3.9	33.9	30.9	31.2	4.5	0.1
	女	100.0 (244)	4.1	9.0	0.4	15.6	13.5	54.1	22.0	41.0	5.7	—
年 令	15～ 17才	100.0 (216)	19.0	14.8	7.4	3.7	9.7	21.3	37.5	40.7	4.2	—
	18～ 19才	100.0 (459)	20.5	15.3	11.8	4.1	3.9	34.6	33.1	35.9	2.8	0.2
	20～ 24才	100.0 (1,396)	24.7	14.9	13.4	2.7	4.7	39.2	27.8	30.0	5.2	0.1
	不 明	100.0 (6)	50.0	16.7	15.7	—	—	33.3	—	—	15.7	—

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ノ、家事、ドライブ、帰宅等をあげている。

性別にみると、男子に較べ女子は、「体操やキャッチボール程度の運動」、「スポーツ」、「昼寝」、「碁・将棋・トランプ等」等で過ごす者の割合が低く、かわって「雑談」、「読書・新聞・テレビ」、「買物」、「散歩」等で過ごす者の割合が高い。

また、年令階級別にみると、「読書・新聞・テレビ」や「昼寝」等で過ごす者は、若年層ほど割合が高く、反対に「雑談」、「キャッチボール程度の運動」「スポーツ」等で過ごす者は、年令層の高い者ほど多い（第17表）。

6 労働災害の防止に関する勤労青少年の意識

(1) 作業・設備の改善についての提案状況

「この1年位の間に、作業のやり方や設備の改善について会社や上司に意見をいったことがありますか」とたずねたところ、「ある」と答えた者が32.2%、「ない」と答えた者が67.4%である。

提案したことが「ある」と答えた者の割合は女子より男子に高く、また、年

第18表 性、年令階級、作業設備に対する提案の有無別
勤労青少年の構成

(%)

		計	あ　　る	な　　い	不　　明
計		$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 207.7 \end{pmatrix}$	32.2	67.4	0.5
性	男	$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 183.3 \end{pmatrix}$	33.6	66.0	0.4
	女	$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 244 \end{pmatrix}$	21.3	77.9	0.8
年令	15～17才	$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 216 \end{pmatrix}$	19.9	79.2	0.9
	18～19才	$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 45.9 \end{pmatrix}$	24.6	74.9	0.4
	20～24才	$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 139.6 \end{pmatrix}$	36.4	63.2	0.4
	不　　明	$\begin{pmatrix} 100.0 \\ 6 \end{pmatrix}$	66.7	33.3	—

令層が高い者ほど多く、15～17才が19.9%であるが、18～19才が24.6%、20～24才が36.4%となっている（第18表）。

(2) 労働災害の防止

事故を防ぐにはどうしたらよいかを、本人自身、施設や設備、労務管理や教育・厚生の各面からみると次のとおりであった。

イ 本人自身について

本人自身については、「機械や材料についての知識をもつ」が38.2%で最も多く、ついで「体の調子を整える」35.5%、「仕事の手順をよくする」30.8%、「作業のきまりを守る」30.5%、「与えられた保護具をきちんと着用する」27.6%、「服装や身なりをきちんとする」15.4%、「道具を整頓する」10.9%、「その他」2.9%となっている。「その他」の内容は、慎重に行動する、無理をしない、的確な判断等をあげている。

性別にみると、男子に比べ女子は、「作業のきまりを守る」、「体の調子を整える」と答えた者の割合が高い。一方、「与えられた保護具をきちんと着用する」と答えた者は、男子を下回っている。

けが等の有無別にみると、けが等のあった者の場合、なかった者が最も高い割合であげている「機械や材料についての知識をもつ」よりも、「体の調子を整える」、「仕事の手順をよくする」と答えた者が多い（第19表）。

ロ 施設や設備について

施設や設備については、約半数が「安全防護装置をもっと整える」と答えが最も多い（48%）。ついで、「照明や換気などをもっと改善する」34.9%、「通路・床などを整備する」32.7%、「高温や騒音をもっと防ぐ」26.7%、「機械や装置を新式にする」21.6%、「その他」3.5%となっている。

これを事業所規模別にみると、「安全装置防護装置をもっと整える」は各規模とも、最も高い割合を占めているが、1～29人規模よりも30人以上の規模に割合が高い。「照明や換気などをもっと改善する」や「高温や騒音

第19表 性、けが等の有無、事故防止に対する意識（本人自身について）別勤労青少年の構成

(%)

		計	機械や材料についての知識をもつ	仕事のしやすさ	服装や身なりを整える	与えられた道具をきちんと着る	道具を整頓する	作業のきまりを守る	体の調子を整える	その他	不明
計		100.0 (2,077)	38.2	30.8	15.4	27.6	10.9	30.5	35.5	2.9	0.3
性	男	100.0 (1,833)	38.3	31.0	15.4	29.2	11.1	29.1	34.8	3.1	0.3
	女	100.0 (244)	37.3	28.7	14.8	16.0	9.4	41.4	41.0	1.6	0.4
けがの有等無	あり	100.0 (604)	33.3	36.1	13.1	25.0	12.1	27.6	36.9	4.1	0.5
	なし	100.0 (1,473)	40.2	28.6	16.3	28.7	10.4	31.7	34.9	2.4	0.2

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

第20表 規模、けが等の有無、事故防止に対する意識（施設や設備について）別勤労青少年の構成（MA）

(%)

		計	機械や装置を新式にする	安全装置防護装置をもっと整える	通路・床などを整備する	高温や騒音をもっと防ぐ	照明や換気などをもっと改善する	その他	不明
計		100.0 (2,077)	21.6	48.0	32.7	26.7	34.9	3.5	1.0
規模	1～29人	100.0 (628)	19.1	44.3	33.9	21.3	31.2	8.3	1.6
	30～99人	100.0 (825)	24.8	49.3	32.5	26.9	36.0	2.1	0.7
	100人以上	100.0 (624)	19.7	49.8	31.9	31.7	37.0	0.6	0.8
被災の有無	あり	100.0 (604)	23.5	49.2	29.6	30.3	32.8	2.8	1.3
	なし	100.0 (1,473)	20.8	47.4	34.0	25.2	35.7	3.8	0.9

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

をもっと防ぐ」等も、大規模事業所ほど割合が高く、特に「高温や騒音をもっと防ぐ」は1～29人が21.3%、30～99人が26.9%、100人以上

上が31.7%で規模により差がみられ、規模の大きい事業所の青少年ほど高温や騒音を強く意識しているといえる。

けが等の有無別には、特に相違がみられない。(第20表)。

ハ 労務管理や教育・厚生について

労務管理や教育・厚生については、「提案や話しあい、もっと従業員の関心を高める」の35.0%、「技能の訓練・指導にもっと力を入れる」の34.2%の二つが高い割合を占める。また、「作業方法を合理化する」は24.4%、「安全衛生教育にもっと力を入れる」は22.1%、「緑をふやしたり音楽を流して雰囲気をよくする」は21.7%、「健康管理にもっと力を入れる」は20.9%、「優良従業員の表彰などでもっと意欲を高める」は7.1%、「その他」は2.9%となっている。「その他」の内容としては、仲間とのチームワークをよくする対策、仕事に関心をもたせる対策、途中に休憩時間をいれる、労働時間の短縮等があげられている。

第21表 規模、けが等の有無、事故防止に対する意識別(労務管理・教育・厚生について)勤労青少年の構成

(%)

		計	作業方法を合理化する	安全衛生教育にもっと力を入れる	技能の訓練・指導にもっと力を入れる	健康管理にもっと力を入れる	提案や話しあいでもっと従業員の関心を高める	優良従業員の表彰などでもっと意欲を高める	緑をふやしたり音楽を流して雰囲気をよくする	その他	不明
計		100.0 (2,077)	24.4	22.1	34.2	20.9	35.0	7.1	21.7	2.9	0.9
規 模	1～29人	100.0 (628)	26.9	18.0	34.2	19.7	37.3	6.2	14.0	4.8	1.8
	30～99人	100.0 (825)	23.5	23.0	34.5	22.5	33.7	6.4	25.5	2.4	0.5
	100人以上	100.0 (624)	22.9	25.2	33.7	20.0	34.3	8.8	24.4	1.6	0.5
け が の 有 無	あ り	100.0 (604)	25.5	23.5	34.9	22.2	33.9	6.0	22.7	2.0	1.2
	な し	100.0 (1,473)	23.9	21.6	33.9	20.4	35.4	7.5	21.2	3.3	0.7

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

これを事業所規模別にみると、「提案や話しあいでもっと従業員の関心を高める」、「技能の訓練・指導にもっと力を入れる」は各規模とも多少差はあるが高い割合を占めている。「作業方法を合理化する」と答えた者は、小規模事業所ほど割合が高いが、「安全衛生教育にもっと力を入れる」と答えた者は、反対に、規模が大きいほど割合が高い。「緑をふやしたり音楽を流して雰囲気をよくする」と答えた者は、規模30人未満と30人以上では相違がみられ、1～29人が14.0％、30～99人が25.5％、100人以上が24.4％で、30人以上に割合が高い（第21表）。

(3) 国・地方公共団体に対する要望

青少年の災害防止と被災者のため、国・地方公共団体で強化してほしい施策についてたずねたところ、「被災者が生活に困らないよう充分に補償する」の57.0％が最も多い。ついで「疲労回復・気分転換のため気楽に使える施設をつくる」の49.5％、「事業所に対し安全指導を強める」31.3％、「被災者の職場復帰のための施設や教育訓練をする」29.3％、「法律や新しい知識・技術の講習をする」25.8％、「医療・健康相談の機会をもっと増やす」22.8％、「事故のこわさをもっとPRする」20.5％、「事故のあった人の相談にあたる」13.0％、「事故処理や手続きについてPRする」8.6％、「その他」0.5％の順となっており、「何もない」は4.2％である。

事業所規模別にみると、「被災者が生活に困らないよう充分に補償する」及び「疲労回復、気分転換のため気楽に使える施設をつくる」と答えた者が、各規模とも高い割合を占めているが、100人未満と100人以上では相違がみられる。すなわち100人未満の場合は、「被災者が生活に困らないよう充分に補償する」と答えた者が最も多く、つぎに多い「疲労回復・気分転換のため気楽に使える施設をつくる」と答えた者を10％以上上回っているのに対し、100人以上規模の場合、わずかながら後者の方が割合が高い。また、「被災者の職場復帰のための施設や教育訓練をする」、「医療・健康相談の機会をもっと増やす」と答えた者は、30人未満よりも30人以上の規模に割合が高い。

第22表 規模、けが等の有無、国・地方公共団体に対する要望別

勤労青少年の構成

(%)

	計	法律や新しい知識・技術の講習をする	事業所に 対し安全 指導を強 める	事故のこ わさをも っとPR する	医療・健 康相談の 機会をも っと増や す	疲労回復 ・気分転 換のため 気楽に使 える施設 をつくる	事故処理 や手続き について PRする	事故にあ った人の 相談にあ たる	被災者が 生活に困 らないよ う充分に 補償する	被災者の 職場復帰 のための 施設や教 育・訓練 をする	その他	何もない
計	100.0 (2077)	25.8	31.3	20.5	22.8	49.5	8.6	13.0	57.0	29.3	0.5	4.2
規 模	1～29人	24.8	29.6	19.3	20.7	43.0	10.4	13.4	56.2	27.1	1.3	7.2
	30～99人	25.8	32.3	22.2	23.5	49.9	8.0	14.9	59.5	30.0	0.1	4.2
	100人以上	25.6	31.9	19.4	24.0	55.6	7.7	10.3	54.3	30.4	0.2	1.3
け が 有 等 無	あ り	27.0 (504)	32.9	21.2	23.2	48.0	8.4	14.9	54.5	27.2	0.7	3.8
	な し	100.0 (1473)	25.3	30.7	20.2	22.7	8.7	12.3	58.0	30.1	0.4	4.4

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

「事故にあった人の相談にあたる」、「事故処理や手続きについてPRする」は、小規模の方が割合が高い。

けが等の有無別には、特に相違はみられない（第22表）。

付 表

事業所調査

付表1 規模別、事業所数及び労働者数

規 模	事業所数 (所)	労 働 者 数 (人)					
		計		男		女	
			うち24 才以下		うち24 才以下		うち24 才以下
計	514	28,965	6,278	22,877	4,950	6,088	1,328
1～29人	296	4,615	970	3,718	764	879	106
30～99人	165	9,315	1,877	7,354	1,539	1,961	338
100人以上	53	15,035	3,531	11,805	2,647	3,230	884

個人調査

付表1 性、規模、経験年数別勤労青少年の構成

(%)

		計	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	不 明
計		100.0 (20.77)	26.0	36.4	21.6	15.9	0.1
性	男	100.0 (18.33)	25.9	35.4	22.2	16.5	0.1
	女	100.0 (24.4)	27.0	43.9	17.2	11.9	—
事業 所 規 模	1～29人	100.0 (62.8)	24.5	36.6	21.8	17.0	—
	30～99人	100.0 (82.5)	25.5	35.4	23.4	15.5	0.2
	100人以上	100.0 (62.4)	28.2	37.3	19.1	15.4	—

付表2 性、年齢、経験年数、けが等の有無、事業所の規則・指導が
守りにくい・反発を感じる理由別勤労青少年の構成(MA)

守りにくい・反発を感じる勤労青少年＝100%

		計	わずら わしい	かっこ 悪い	意味が ない	作業が しにく い	干渉し すぎる	きびし すぎる	みんな 守らな い	何とな く	その他	不 明
計		100.0 (232)	13.4	9.1	9.1	29.3	9.9	5.2	6.9	7.3	5.6	4.3
性	男	100.0 (211)	14.2	5.7	8.5	30.8	10.0	4.7	7.6	8.1	6.2	4.3
	女	100.0 (21)	4.8	42.9	14.3	14.3	9.5	9.5	—	—	—	4.8
年 令	15～ 17才	100.0 (25)	20.0	4.0	—	36.0	4.0	8.0	8.0	15.0	—	4.0
	18～ 19才	100.0 (52)	7.7	13.5	13.5	21.2	11.5	1.9	11.5	9.6	5.8	3.8
	20～ 14才	100.0 (153)	14.4	8.5	9.2	30.7	10.5	5.9	5.2	5.2	6.5	3.9
	不 明	100.0 (2)	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	50.0
経 験 年 数	1年未満	100.0 (58)	15.5	12.1	8.6	17.2	6.9	5.2	6.9	13.8	8.6	5.2
	1年以上 3年未満	100.0 (81)	12.3	9.9	6.2	35.8	11.1	3.7	3.7	7.4	6.2	3.7
	3年以上 5年未満	100.0 (59)	13.6	6.8	10.2	33.9	15.3	5.1	3.4	5.1	1.7	5.1
	5年以上	100.0 (34)	11.8	5.9	14.7	26.5	2.9	8.8	20.6	—	5.9	2.9
け が 有 等 無	あ っ た	100.0 (94)	16.0	7.4	9.6	28.7	6.4	3.2	6.4	10.6	4.3	7.4
	な かつ た	100.0 (138)	11.6	10.1	8.7	29.7	12.3	6.5	7.2	5.1	6.5	2.2

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

勤労青少年の安全衛生意識に関する調査

事業所調査票

(50 年 6 ～ 7 月)

秘

労働省 青少年局

様式第 1 号

行政官庁承認No.10129

昭和50年 8 月20日まで

青少年室名		青少年室番号	
調査年月日		調査員氏名	

・記入上の注意 : 特記事項のない場合は、あてはまるもの「一つだけ」に○印をつけ、()の中には具体的な内容を記入して下さい。※印入は記入しないで下さい。

I 事業所の概要

問1 従業員は何人ですか。

区 分	総 数	男	女
青少年数 (25才未満)			

問2 どんな作業がありますか。そのうち、青少年がしている作業は何ですか。(あてはまるものを全部に○をつけて下さい)。

作 業 の 種 別	事業所全体	そのうち 青少年が しているもの
旋盤・フライス盤など機械による加工		
金属プレス		
シ ャ ー		
電気溶接		
ガス溶接・切断		
鉄工・びょう打・製かん		
ブリキ加工・板金		
金属彫刻		
め っ き		
仕 上		
パフみがき		
針金製品・針・ばね製造		
その他の金属加工作業		
運 搬		
記録・製図		
監視作業		
事務		
その他()		

II 青少年の災害防止について

問3 最近の青少年について安全衛生に関連して指導上困っていることがありますか。

1 あ る	2 な い
-------	-------

↓
どんなことですか(3つまで○をつけて下さい)。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1 いいつけを守らない | 2 作業上のきまりを守らない |
| 3 注意力の不足 | 4 根気がない |
| 5 体力の不足 | 6 作業服をきちんと着ない |
| 7 頭髪をきちんとしない | 8 余暇の遊びすぎ |
| 9 無断欠勤・遅刻が多い | 10 転倒が多く、指導効果がたがちな |
| 11 その他() | |

問4 安全衛生上、特に青少年に対して気づかしていることがありますか。

1 あ る	2 な い
-------	-------

↓
どんなことですか(あるものを全部に○をつけて下さい)。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 重点的な技術指導 | 2 体健・体力づくり |
| 3 若者のリーダーの養成 | 4 生活指導や相談 |
| 5 余暇の指導 | 6 自動車運転者の指導 |
| 7 意思疎通をよくする | |
| 8 その他() | |

問5 安全衛生についての青少年の意見は主にだれがききますか。

- | | |
|----------------------|----------|
| 1 安全・衛生委員、安全・衛生管理者など | |
| 2 現場監督 | 3 社長、工場長 |
| 4 すく上の上司 | |
| 5 その他() | |

問6 入社時の青少年の安全衛生教育はどんな方法で行っていますか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 期間を定めて一せいに | 2 個別に仕事を通じて |
| 3 その他() | |

↓
だれが教えますか。

- | | |
|----------------------|---------|
| 1 安全・衛生委員、安全・衛生管理者など | |
| 2 現場監督 | 3 外部の講師 |
| 4 すく上の上司 | |
| 5 その他() | |

問7 青少年の安全衛生意識に関連して、学校や家庭でもっと力を入れて教育してほしいことがありますか。

1 あ る	2 な い
-------	-------

↓
どんなことですか(3つまで○をつけて下さい)。

- | | |
|-----------|----------|
| 1 職業意識 | 2 きまりを守る |
| 3 他人との協調性 | 4 体力づくり |
| 5 機敏さ | 6 器用さ |
| 7 健康の自己管理 | 8 救急措置 |
| 9 余暇指導 | |
| 10 その他() | |

勤労青少年の安全衛生意識に関する調査

個人調査票

様式第2号

行政管理局承認No.10130

昭和50年・8月20日まで

(50年6～7月)

給

労働省 婦人少年局

個人少年室名		個人少年室整理番号		調査年月日	
事業所番号		事業所規模		調査員氏名	
対象者の性別	1 男 2 女	年 令	1 15 — 17才 2 18 — 19才 3 20 — 24才	学 歴	1 中学 2 高卒 3 短大・大学卒

・記入上の注意 : 特になしとしない場合は、あてはまるもの「一つだけ」に○印をつけ、()の中には具体的な内容を記入して下さい。※印入は記入しないで下さい。

I あなたの仕事の状況など

問1 現在している仕事のうち、一ばん主な仕事は何ですか。

1 旋盤・フライス盤など機械による加工	3 ツヤ
2 金属プレス	5 ガス溶接・切断
4 電気溶接	7 プリキ加工・板金
6 鉄工・びょう打・製かん	9 めっき
8 金属彫刻	11 パフミがき
10 仕上	13 その他の金属加工
12 針金製品・針・ばね製造	15 配線・装設
14 塗装	17 事務
16 監視作業	18 その他()

問2 どういう形の勤務をしていますか。

1 ふつうの昼間だけの勤務	イ 2交替制	ロ 3交替制	ハ その他()
2 交代制のある勤務			

問3 仕事の経験はどのくらいですか。

(1) 今のつとめ先の勤続年数	1 1年未満	2 1年以上3年未満
	3 3年以上5年未満	4 5年以上

(2) 今している仕事の経験年数

1 1年未満	2 1年以上3年未満
3 3年以上5年未満	4 5年以上

問4 あなたの仕事上の知識はどの位ですか。

(1) 安全衛生関係の法律や規則について	1 よく知っている	2 知っている
	3 まあまあ	4 知らない

(2) 自分の仕事に使う機械や材料について

1 よく知っている	2 知っている
3 まあまあ	4 知らない

問5 今の職業を続けたいですか。

1 続けたい(別の事業所で続ける場合でもよい)
2 職業を変えたい
3 おからない

なぜですか。

1 向いていない	2 むずかしい
3 労働がはげしい	4 単調すぎる
5 緊張する	
6 その他()	

II 安全衛生に関する態度について

問6 ふだん健康についてどんなことをしていますか(主なものを2つまで○をつけて下さい)。

1 すいみを充分とる	2 食事に気をつける
3 体操や運動をする	4 栄養剤などをのむ
5 仕事のことを考えて生活をコントロールする	
6 その他()	
7 何もしていない	

問7 この半年くらいの間に、遊びや夜ふかしによる遅刻や欠勤がありましたか。

1 あった	2 なかった
-------	--------

どの程度ですか

1 時々	2 ごくたまに
3 何ともいえない	

問8 この1カ月くらいの間、屋休みには何をしましたか(比較的多いものを2つまで○をつけて下さい)。

1 体操やキャッチボール程度の運動	
2 スポーツ	3 碁・将棋・トランプなど
4 買物	5 散歩
6 雑談	7 読書
8 読書・新聞・テレビ	9 その他()

問10 安全衛生に関して作業や服装についての事業所のきまりや指導をどう思いますか。

- 1 当然だと思う
- 2 守りにくい
- 3 反ばつを感じる
- 4 何ともいえない

どのような点ですか？

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 わずらわしい | 2 かつが悪い |
| 3 意味がない | 4 作業がしにくい |
| 5 干涉しすぎる | 6 きびしすぎる |
| 7 みんな守らない | 8 何となく |
| 9 その他() | |

Ⅲ 労働災害の防止について

問10 この1年くらいの間に仕事上げがまじたり、病気になることはありますか？

- 1 あった
- 2 なかった

休みましたか

- 1 休んだ
- 2 休まなかった

障害は

- 1 残った
- 2 残らなかった

問11 この1年くらいの間に、同じ事業所の青少年(24才くらいまで)で仕事上げがまじたり、病気になる人がいますか？

- 1 い た
- 2 いなかった

問12 事故を防ぐにはどうしたらよいと思いますか？(それぞれ2つまで○をつけて下さい)。

(1) 本人自身について

- 1 機械や材料についての知識をもつ
- 2 仕事の手順をよくする
- 3 服装や身なりをきちんとする
- 4 与えられた保護具をきちんと着用する
- 5 道具を整えとる
- 6 作業のきまりを守る
- 7 体の調子を整える
- 8 その他()

(2) 施設や設備について

- 1 機械や装置を新式にする
- 2 安全装置・防護装置をもっと整える
- 3 通路・床などを整備する
- 4 高圧や騒音をもっと防ぐ
- 5 照明や換気などをもっと改善する
- 6 その他()

(3) 労働管理や教育・厚生について

- 1 作業方法を合理化する
- 2 安全衛生教育にもっと力を入れる
- 3 技能の訓練・指導にもっと力を入れる
- 4 健康管理にもっと力を入れる
- 5 提案や話しあいでもっと従業員の関心を高める
- 6 優良従業員の表彰などでもっと意欲を高める
- 7 緑をふやしたり、音楽を流して雰囲気をよくする
- 8 その他()

問13 この1年位の間に、作業のやり方や設備の改善について会社や上司に意見まいったことがありますか。

- 1 あ る
- 2 な い

問14 もしあなたが、仕事上、大けがをしたり病気になったら、と考えることがありますか。

- 1 あ る
- 2 な い

どんなことが不安ですか。(2つまで○をつけて下さい)。

- 1 身体・生命にかかわる
- 2 会社に損害を与える
- 3 同僚にめいわくをかける
- 4 相談相手がいない
- 5 職業上の将来性がなくなる
- 6 結婚相手がみつけない
- 7 親に心配をかける
- 8 生活に困る
- 9 その他()

問15 青少年の災害防止と被災した人のため、国や地方公共団体ではすでにいろいろな施策を実施していますが、もっと強化してほしいことは何ですか。(3つまで○をつけて下さい)。

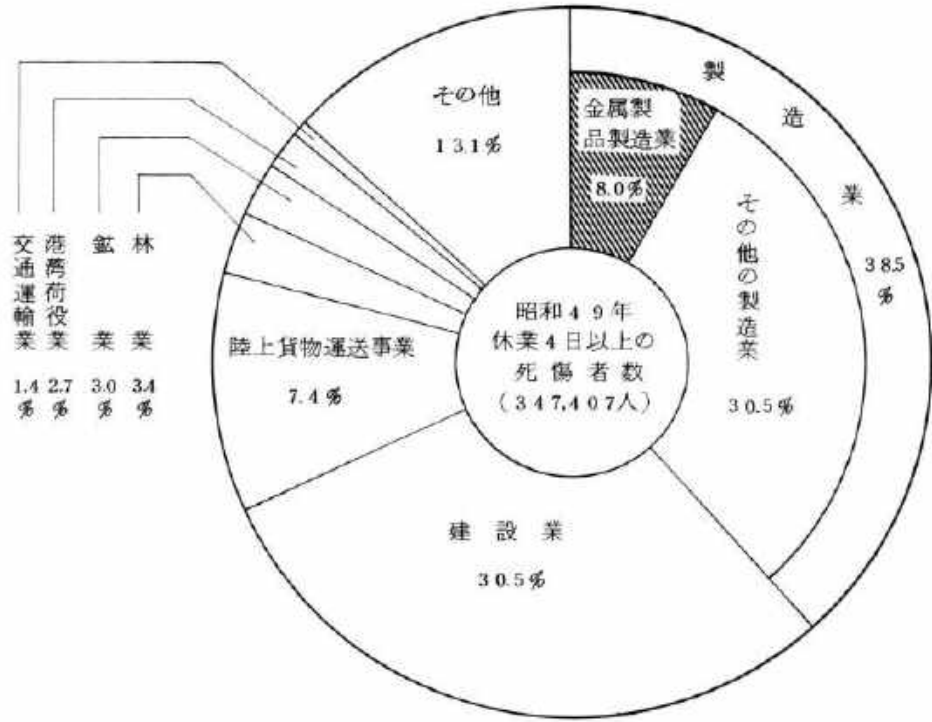
- 1 法律や新しい知識・技術の講習をする
- 2 事業所に対し安全指導を強める
- 3 事故のこわさをもっとPRする
- 4 医療・健康相談の機会をもっと与える
- 5 疲労回復・気分転換のため、気楽に使える施設をつくる
- 6 事故処理や手続きについてPRする
- 7 事故にあった人の相談にあたる
- 8 被災者が生活に困らないよう充分に補償する
- 9 被災者の職場復帰のための施設や教育・訓練を充実する
- 10 その他()
- 11 何もない

参 考

労働災害関連図表

以下の参考図表は、「産業安全年鑑」（昭和50年版）に収録されている産業災害の中から、金属製品製造業及び勤労青少年に関連の深い統計資料を、参考までに掲載したものである。

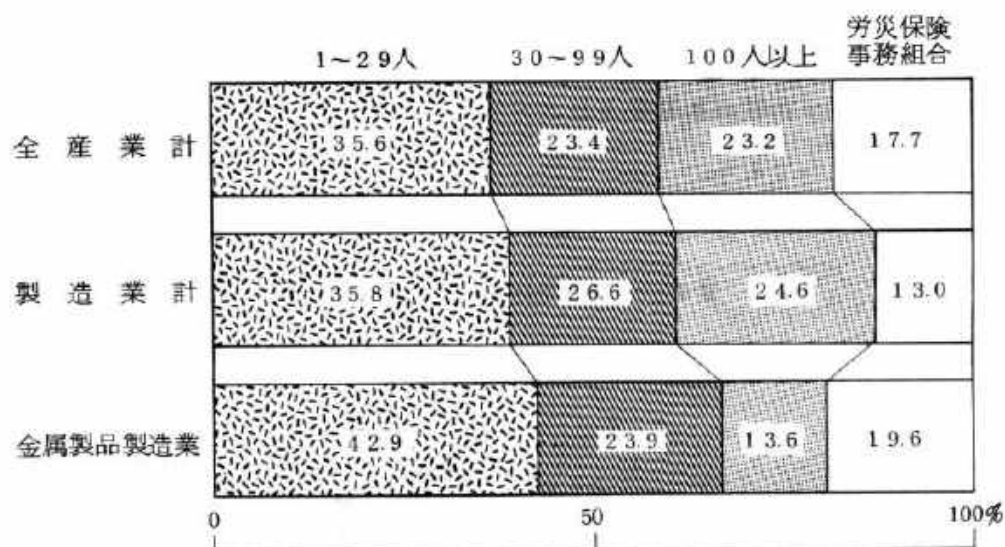
参考図1 産業別休業4日以上死傷者数の構成



労働省 「労災保険給付データ」

注) 昭和48年4月～49年6月までに支払った給付のうち、49年発生分である。

参考図 2 規模別休業 4 日以上之死傷者数の構成（昭和 49 年）



労働省 「労災保険給付データ」

注) 参考図 1 に同じ

参考表 1 業 種 別 の 傷 病 程 度 別 , 事 故 の

区 分 事業の種類	計	傷 病 程 度						墜 落 ・ 転 倒	
		死 亡	永 久 全 労 働 不 能	永 久 一 部 労 働 不 能	休 業 1 月 以 上	休 満 業 4 日 以 上 1 月 未	分 類 不 能		
計	133,266 (100.0)	1,203 (0.9)	47 (0.0)	9,971 (7.5)	36,900 (27.7)	83,742 (62.8)	1,403 (1.1)	11,309 (8.5)	12,373 (9.3)
食 料 品 製 造 業	13,575	134	18	730	3,540	8,943	210	1,472	2,197
繊 維 工 業	4,235	35	-	321	1,086	2,745	48	306	444
衣服その他の繊維製品製造業	1,630	23	-	82	450	1,028	47	118	236
木材・木製品製造業	25,135	141	-	1,671	6,863	16,257	204	1,931	2,390
家具・装備品製造業	5,158	12	6	718	1,074	3,323	25	254	211
パルプ・紙・紙加工品製造業	3,388	70	-	252	1,063	1,951	52	364	276
印 刷 ・ 製 本 業	1,338	18	-	117	351	830	22	100	76
化 学 工 業	5,262	59	6	305	1,559	3,231	102	532	487
窯業・土石製品製造業	11,297	140	-	532	3,353	7,173	99	978	1,139
鉄 鋼 業	6,087	82	6	298	1,863	3,785	53	394	486
非 鉄 金 属 製 造 業	1,642	0	-	76	468	1,070	28	142	88
金 属 製 品 製 造 業	20,772 (100.0)	175 (0.8)	-	2,541 (12.2)	5,695 (27.4)	12,138 (58.4)	223 (1.1)	1,473 (7.1)	1,409 (6.8)
一 般 機 械 器 具 製 造 業	11,969	76	-	888	3,149	7,740	116	866	706
電 気 機 械 器 具 製 造 業	3,510	35	-	409	870	2,155	41	270	317
輸送用機械器具製造業	9,569	122	11	508	2,832	6,040	56	1,305	1,045
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	473	29	-	12	158	269	5	76	83
そ の 他 の 製 造 業	8,225	52	-	511	2,526	5,064	72	728	783

労働省 「労災保険給付データ」

注. 参考図 1 に同じ

() 内は構成比

型別死傷者数（昭和49年、製造業、休業4日以上）

（単位：人）

事故の型												
飛来落下物にあたる	踏 抜 き	激 突	は ま さ れ る 、 く い 込	こ す れ 、 す り む き 、 触 れ て 切 れ る 等	激 しい 動 作 （力 の 出 し ず ぎ 等）	感 電	爆 発 破 裂	有 害 物 と の 接 触 等	異 常 温 度 と の 接 触	道 路 交 通 事 故	そ の 他 の 交 通 事 故	そ の 他 及 び 分 類 不 能
29,278 (22.0)	450 (0.3)	7,436 (5.6)	38,875 (29.2)	16,974 (12.7)	7,214 (5.4)	362 (0.3)	356 (0.3)	823 (0.6)	3,855 (2.9)	2,874 (2.2)	204 (0.2)	883 (0.7)
1,689	35	683	3,844	1,625	790	6	41	41	544	420	24	164
562	35	217	1,764	374	187	23	6	18	158	100	12	29
181	0	94	573	216	70	6	0	6	35	88	6	1
6,823	135	1,134	5,598	5,689	813	24	6	30	158	258	18	129
877	0	112	899	2,389	211	12	6	41	47	59	12	28
467	6	175	1,412	239	205	6	12	18	93	106	0	9
59	0	82	777	94	65	6	0	6	18	47	0	8
754	18	361	1,456	292	450	30	35	291	343	166	12	35
2,787	35	818	3,593	514	754	18	23	36	221	298	24	59
1,930	12	403	1,469	245	295	24	64	36	595	95	18	21
400	0	69	412	101	139	—	0	24	204	42	6	15
5,289 (25.5)	53 (0.3)	1,239 (6.0)	7,431 (35.8)	1,870 (9.0)	1,111 (5.3)	47 (0.2)	41 (0.2)	65 (0.3)	415 (2.0)	235 (1.1)	12 (0.1)	83 (0.4)
2,917	23	754	3,769	1,513	753	47	29	59	275	170	12	76
616	0	147	1,220	276	265	29	12	36	76	205	6	35
2,342	53	648	2,205	690	656	42	12	47	327	135	23	39
53	0	17	18	0	18	23	0	12	6	138	15	14
1,533	45	483	2,435	848	432	19	69	57	340	312	4	138

参考表2 事業の種類別，年齢別

事業の種類	計	17歳以下	18～19歳	20～24歳	25～29歳
計	133,266 (100.0)	2,214 (1.7)	4,317 (3.2)	12,869 (9.7)	13,155 (9.9)
食料品製造業	13,575	164	438	1,151	1,332
繊維工業	4,235	269	257	444	321
衣服その他の繊維製品製造業	1,540	70	58	251	123
木材・木製品製造業	25,136	152	304	1,133	1,344
家具・装備品製造業	5,158	128	269	602	485
パルプ・紙・紙加工品製造業	3,388	29	129	426	432
印刷・製本業	1,338	58	64	210	210
化学工業	5,263	64	199	607	648
窯業・土石製品製造業	11,297	47	216	707	865
鉄鋼業	6,087	29	123	520	602
非鉄金属製造業	1,641	0	53	140	158
金属製品製造業	20,772 (100)	426 (2.1)	742 (3.6)	2,471 (11.9)	2,448 (11.8)
一般機械器具製造業	11,969	315	561	1,268	1,525
電気機械器具製造業	3,511	76	187	590	508
輸送用機械器具製造業	9,568	146	251	1,011	1,086
電気・ガス・水道業	473	6	17	76	47
その他の製造業	8,225	235	449	1,262	1,021

労働省 「労災保険給付データ」

注. 参考図1に同じ

()内は構成比

死 傷 者 数 (昭和49年, 製造業, 休業4日以上)

(単位: 人)

30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~50歳	51~54歳	55~59歳	60歳以上	分類不能
13,663 (10.3)	16,029 (12.0)	18,155 (13.6)	16,496 (12.4)	14,160 (10.6)	10,152 (7.6)	11,385 (8.5)	671 (0.5)
1,396	1,729	1,822	1,636	1,630	1,036	1,122	69
368	491	572	520	310	345	321	17
111	251	210	193	152	88	117	6
1,928	2,804	4,077	3,996	3,365	2,594	3,207	232
496	607	753	409	339	444	625	1
339	467	409	368	286	239	251	13
158	204	123	93	70	64	76	8
596	754	607	631	514	356	275	12
1,203	1,495	1,928	1,454	1,630	841	870	41
654	771	830	835	713	461	514	35
204	234	199	199	187	111	140	16
2,068 (10.1)	2,518 (12.1)	2,588 (12.5)	2,459 (11.8)	1,887 (9.1)	1,396 (6.7)	1,694 (8.2)	75 (0.4)
1,519	1,478	1,355	1,390	1,057	672	771	58
403	456	450	345	234	117	140	5
1,157	993	1,279	1,133	952	794	724	42
23	41	47	58	93	47	17	1
1,040	736	906	777	711	497	521	40

参考表3 事業の種類別，経験期間

事業の種類	計	1月以下	1月～3月	3月～6月	6月～1年
計	133,266 (100.0)	3,914 (2.9)	5,520 (4.1)	6,221 (4.7)	9,761 (7.3)
食料品製造業	13,575	561	754	882	1,022
繊維工業	4,235	152	134	204	327
衣服その他の繊維製品製造業	1,630	64	88	123	210
木材・木製品製造業	25,136	578	865	829	1,501
家具・装備品製造業	5,158	111	181	234	374
パルプ・紙・紙加工品製造業	3,388	58	181	222	327
印刷・製本業	1,338	35	53	53	140
化学工業	5,263	164	263	350	356
窯業・土石製品製品業	11,297	339	543	637	940
鉄鋼業	6,087	158	310	140	391
非鉄金属製造業	1,641	23	58	123	164
金属製品製造業	20,772 (100.0)	695 (3.2)	900 (4.3)	859 (4.1)	1,408 (6.8)
一般機械器具製造業	11,969	310	450	491	771
電気機械器具製造業	3,511	105	146	222	491
輸送用機械器具製造業	9,568	228	356	409	584
電気・ガス・水道業	473	23	17	17	12
その他の製造業	8,225	310	221	426	743

労働省 「労災保険給付データ」

注. 参考図1に同じ

()内は構成比

別 死 傷 者 数 (昭和49年, 製造業, 休業4日以上)

(単位:人)

1年～2年	2年～5年	5年～10年	10年～20年	20年以上	分類不能
15,316 (11.5)	30,013 (22.5)	25,837 (19.4)	21,444 (16.1)	10,462 (7.9)	4,778 (3.6)
1,834	3,335	2,331	1,636	724	496
555	981	812	625	321	124
251	450	175	158	76	35
2,547	5,193	5,246	4,848	2,570	959
613	958	976	865	654	192
456	794	590	502	164	94
140	286	181	275	146	29
613	1,151	987	818	421	140
1,466	2,886	2,120	1,343	602	421
561	1,227	1,198	1,326	608	168
175	339	292	274	117	76
2,494 (12.0)	4,772 (23.0)	4,434 (21.3)	3,213 (15.5)	1,168 (5.6)	829 (3.4)
1,233	2,716	2,214	2,290	1,110	384
537	894	549	345	99	123
865	1,992	1,916	1,636	1,192	390
47	82	93	76	105	1
929	1,957	1,723	1,214	385	317

参考表4 不 安 全 な 行 動 別， 年 齢 階 級 別 死

不 安 全 な 行 動	計	17歳以下	18～19歳	20～24歳	25～29歳
計	125,614 (100%)	2,126 (1.7)	4,136 (3.3)	12,180 (9.7)	12,419 (9.9)
安全装置を無効にする	2,775	64	111	345	292
安全措置の不履行	5,964	111	269	683	648
不 安 全 な 放 置	4,323	58	111	345	415
危険な状態を作る	3,312	41	70	245	199
機械装置等の指定外の使用	3,861	111	93	467	397
運転中の機械装置等の掃除， 注油，修理点検等	9,919	251	532	1,174	1,174
保護具，服装の欠陥	3,575	58	146	415	415
その他の危険場所への接近	20,866	315	608	1,951	1,898
その他の不安全な行為	15,889	245	602	1,472	1,636
運 転 の 失 敗(乗物)	2,734	41	105	421	315
誤 っ た 動 作	39,307	625	1,192	3,487	3,779
その他の不安全な行動	10,380	175	234	993	993
分 類 不 能	2,709	31	63	182	258

労働省 「製造業における労働災害原因分析調査」

注.()内は構成比

傷者数（昭和49年，製造業，休業4日以上）

（単位：人）

30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～50歳	51～54歳	55～59歳	60歳以上	分類不能
12,857 (10.2)	15,065 (12.0)	17,104 (13.6)	15,374 (12.2)	13,389 (10.7)	9,585 (7.6)	10,725 (8.5)	654 (0.5)
298	304	298	304	263	204	263	29
613	724	911	672	561	403	345	24
415	497	643	555	432	356	462	34
327	397	450	485	391	327	368	12
438	532	409	426	327	275	362	24
999	1,104	1,384	1,162	993	479	643	24
397	526	479	356	263	234	269	17
2,120	2,576	2,851	2,605	2,354	1,588	1,776	124
1,542	1,939	2,196	2,015	1,717	1,110	1,355	60
298	298	333	327	251	175	158	12
4,036	4,615	5,579	4,831	4,247	3,248	3,423	245
1,075	1,215	1,209	1,343	1,238	853	1,016	36
299	338	362	293	352	233	285	13

GAa1/1

労働省婦人少年局



文部省図書印



00765504